

板 木

群馬県へき地教育研究資料第63集

平成27年3月

群馬県教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

板 木

群馬県へき地教育研究資料第63集

序



へき地教育資料「板木」の歴史は古く、へき地教育連盟が発足した昭和27年から発刊が始まり、今年度で第63集の刊行を迎えました。

「板木」には、これまでのへき地教育に関する研究や実践がまとめられてきており、正に群馬のへき地教育の歩みそのものと言えます。改めて、へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対して深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、群馬県では平成26年3月に第2期群馬県教育振興基本計画を策定し、基本目標「たくましく生きる力をはぐくむ～自ら学び、自ら考える力を～」の下、特色ある学校づくりを推進し、一人一人の児童生徒が個性や能力を伸ばし、共に支え合い、高め合いながら自己実現を図るための取組を行っています。

一方、へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、様々な施策を実施しております。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助など、多くの施策を推進してまいりました。

また、今年度は本県において、全国へき地教育研究大会が盛大に開催されました。平成24年度から実行委員会を立ち上げて準備を進めていただき、大会スローガン「群馬の風にのり ふるさとを愛し 新しい時代を拓く子どもを 育てよう」の下、へき地学校の学校・学級経営及び学習・生徒指導等の諸課題に係る研究協議や全国各地における研究成果の交流が行われました。大会1日目の全体会では、アルペールビル、リレハンメル両冬季オリンピック金メダリストである本県吾妻郡草津町出身の荻原健司氏による記念講演が行われ、世界へ羽ばたいていった力の源が、へき地における教育にあったことを実感することができました。さらに、倉渕中学校生徒による器楽演奏が本大会を一層彩るとともに、大会2日目の分科会では、県内へき地9校で学力向上を目指した授業や地域教材を取り入れた活動が公開され、それぞれのふるさとのよさを生かしながら、生き生きと学び育つ児童生徒の姿を全国各地から参加された先生方に発信することができたと思います。

このように、へき地教育に関わる皆様の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られていることに感謝申し上げますとともに、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力してまいりたいと思います。

最後になりますが、ここに、へき地教育研究資料「板木」第63集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表すとともに、各教育機関等において「板木」が十分に活用されますことを御期待申し上げます。

平成27年3月

群馬県教育委員会

教育長 吉野 勉

「板木」第63集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、群馬県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び群馬県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育に関わる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、へき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げてきたことに対し、心より感謝申し上げます。

さて、近年の社会情勢の激しい変化の中で、へき地教育を取り巻く環境も大きな変革期を迎えているといえます。少子高齢化の急速な進行や都市部への人口流出により、へき地における児童生徒の数は大幅な減少傾向にあります。本県においても、それらに伴う学校統廃合により、へき地における学校数も年々減少が続いており、本年度は44校となりました。来年度は、さらに統合が進み学校数が減少してしまう状況です。

そのような中、今年度は本県において、第63回全国へき地教育研究大会が開催されました。本県へき地学校の出身者で、大きな舞台上で活躍された方として、冬季オリンピック金メダリストの荻原健司氏がおります。また、昨年度優勝投手として甲子園を沸かせた高橋光成選手のこと、開会式で紹介させていただきました。こうした人材を育んだ本県へき地学校における教育では、地域との密接な関係等を生かした温かな人間関係に支えられて、一人一人へのきめ細やかな指導や豊かな体験活動が実践され、児童生徒が心身ともに健やかに育っていることを、大会1日目の荻原氏の御講演や、大会2日目の9分科会における公開授業等を通して全国に発信できたのではないのでしょうか。

これらは、へき地教育に献身的に取り組まれてきた先生方や、地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心から感謝申し上げます。

このたび、へき地教育研究連盟の方々を中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育実践等をまとめた「板木」第63集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にできるとともに、今後のへき地教育の振興を一層図ることに役立つたいへん意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、この「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び関係する地域の皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます、刊行に寄せての挨拶といたします。

平成27年3月

群馬県へき地教育振興会

会 長 星野 已喜雄

「板木」第63集の発刊にあたって

平素より、関係の皆様にはへき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しましてご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年も群馬県へき地教育研究資料「板木」が第63集として発刊の運びとなりました。この「板木」は、群馬県のへき地教育の貴重な資料として長年活用されてきています。これまで「板木」の発刊に携わってこられた多くの皆様に心から敬意を表するものであります。

さて、今年も群馬県へき地教育研究連盟にとって大きな節目の年となりました。それは54年ぶりに「全国へき地教育研究大会」を群馬県で開催することができたからです。

この全国大会の開催に向け、23年度から準備会を行い、24年度からは実行委員会を立ち上げ準備に当たってきました。

誰もが経験したことのない大会の開催は、実行委員にとって試行錯誤の連続でした。私自身は、22年度広島大会、24年度和歌山大会、25年度三重大大会と3回の全国大会に参加させていただきましたが、参加しただけでは運営・準備面の詳細は当然わからず、和歌山大会の事務局長様や三重大大会の実行委員長・事務局長様等から多くの資料・情報をいただき、参考にしながらの準備でした。

群馬大会の開催のご案内は、1次案内を25年9月に、2次案内(最終案内)を26年6月に発送しました。特に県内の市町村教育委員会及び小・中学校には、へき地校であるなしに関わらず全てお送りし、参加をお願いするかたちをとらせていただきました。それは、へき地校で取り組んできた「家庭や地域と連携し地域に根ざした学校・学級経営」や「個に応じたきめ細かな学習指導」等は、へき地校だけの課題でなく、すべての学校に共通したものと考えたからです。また、多くの参加者と意見交換等を行い、実りある大会にしたいという願いもありました。結果的には県内小・中学校からは400校ほどの参加申込みをいただき、授業校の先生方を加えると2日間で総数1,000人を超える参加者となり、大会を盛り上げていただきました。

県内外から参加してくださった方からは、良い大会だったとお言葉もいただきました。このように無事大会を終えることができたのも、大会の企画・運営に全面的にご協力をいただきました群馬県教育委員会の皆様、様々な場面でご支援をいただきました群馬県へき地教育振興会長星野已喜雄様をはじめとする振興会の皆様、へき地校保有市町村教育委員会をはじめとする県内市町村教育委員会の皆様等、多くの皆様のご協力があったからこそです。関係の皆様にご心から感謝しております。

大会の詳細については、本資料第2部に詳しく掲載してありますので、ご確認いただければ幸いです。

群馬大会の貴重な記録が、今後のへき地教育の参考となり、ますますの充実に寄与することを願ってやみません。

結びに、第63集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方にお礼を申し上げるとともに、ご指導ご支援いただきました群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係の皆様にご深く感謝申し上げます、発刊にあたってのあいさつといたします。

平成27年3月

群馬県へき地教育研究連盟
理事長 **吉野 隆哉**

も く じ

序 文

県教育委員会教育長

県へき地教育振興会長

県へき地教育研究連盟理事長

第1部 へき地教育の振興

I 変貌するへき地の学校

- 片品村立片品北小学校の閉校 (前) 校長 宮内 栄子 ----- 1
閉校した中之条町立西中学校 (前) 校長 小野塚 則幸 ----- 2

II へき地の学校経営

- 地域の達人に学ぶ伝統文化活動 ----- 3
片品村立武尊根小学校長 片山 雅資
地域と連携した勤労生産学習・環境教育の推進 ----- 5
安中市立松井田北中学校長 石坂 克己

III 学習指導の改善に関する実践的な研究

- 自分の考えを生き生きと表現できる児童の育成 ----- 7
～ICT機器を活用した授業づくりを通して～
長野原町立第一小学校長 唐澤 宏

IV へき地学校における生徒指導の実践

- 〈1〉小学校 地域のよさを生かして豊かな心を育てる生徒指導 ----- 9
高崎市立倉渕小学校長 倉林 由恭
〈2〉中学校 自治的活動をめざす生徒主体の学校づくり ----- 11
高山村立高山中学校長 菅谷 礼示

第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 平成26年度へき地学校教員研修の概要 ----- 13

群馬県へき地教育研究連盟研究部長
上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

II 第63回全国へき地教育研究大会（群馬大会）

- 〈1〉概 要 ----- 14

- 〈2〉全体会報告 ----- 20

群馬県へき地教育研究連盟研究部長
上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

〈3〉分散会報告

第1分散会 -----22

家庭や地域と連携して、確かな学びを創る特色ある教育計画の創造と推進を図る

沼田市立多那中学校長 中島 誓子

研究発表1 庄原市立比和小学校 研究発表2 長野市立中条小学校

第2分散会 -----23

ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進を図る

渋川市立南雲小学校長 狩野 英市

研究発表1 津幡町立笠野小学校 研究発表2 長岡市立小国中学校

第3分散会 -----24

地域に根ざし、家庭や地域と連携して豊かな心をはぐくむ教育活動の創造と推進を図る

中之条町立六合小学校長 冨沢 正

研究発表1 十津川村立西川第二小学校 研究発表2 小菅村立小菅中学校

第4分散会 -----25

児童生徒の分かる喜びや個性の伸張を重視した指導計画の改善・充実を図る

東吾妻町立岩島中学校長 高山 明彦

研究発表1 盛岡市立城内小学校 研究発表2 新島村立式根島中学校

第5分散会 -----26

学習意欲の向上や個に応じたきめ細かな指導を重視した指導方法の改善・充実を図る

安中市立細野小学校長 本多 利幸

研究発表1 南島原市立布津小学校第一分校 研究発表2 かすみがうら市立上佐谷小学校

第6分散会 -----27

課題意識をもって自ら学び、仲間と共に高め合う学習過程の改善・充実を図る

神流町立中里中学校長 飯野 聡

研究発表1 白老町立社台小学校 研究発表2 矢板市立乙畑小学校

〈4〉分科会報告

A分科会（高崎市立宮沢小学校） -----28

自らの考えを言葉を用いて分かりやすく伝え合うことができる児童の育成

～各教科等における思考力を伸ばす言語活動の工夫に視点を当てて～

B分科会（上野村立上野中学校） -----30

主体的に学ぶことのできる生徒の育成

～学び合い活動の工夫を通して～

C分科会（高山村立高山小学校）	-----	32
自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成		
～聴き合い つながり合う 授業づくりを通して～		
D分科会（東吾妻町立坂上小学校）	-----	34
深く考え、よく学び合う児童の育成		
～気づき考え共に学ぶ指導の工夫を通して～		
E分科会（嬭恋村立東部小学校）	-----	36
互いに認め合い、高め合える児童の育成		
～地域を大切にしたい授業づくりの工夫を通して～		
F分科会（長野原町立応桑小学校）	-----	38
ふるさとのよさを生かし自ら学ぶ心豊かな児童の育成		
～くわっ子タイムの活動を生かして～		
G分科会（中之条町立六合中学校）	-----	40
自らの考えを伝え、互いを認めて高め合える生徒の育成		
～学び合える表現活動の充実を通して～		
H分科会（昭和村立大河原小学校）	-----	42
自分の思いや考えを表現し、高め合う児童の育成		
～伝え合う活動の工夫を通して～		
I分科会（沼田市立利根中学校）	-----	44
自他のよさを認め合える生徒の育成		
～協同的な学びを取り入れた学習を通して～		

《資 料》

I 平成26年度へき地学校資料	-----	46
II 平成26年度群馬県へき地教育振興会役員	-----	49
III 平成26年度群馬県へき地教育研究連盟役員	-----	50
IV 平成26年度群馬県へき地教育センター指導員	-----	51
V 平成26年度へき地教育功労者	-----	52

あ と が き	-----	53
---------	-------	----

第 1 部

へき地教育の振興



～第63回全国へき地教育研究大会群馬大会 分散会より～



I 変貌するへき地の学校

片品村立片品北小学校の閉校

片品村立片品北小学校 (前) 校長 宮内 栄子

1 はじめに

本校は片品村の北部、土出地区と戸倉地区を校区とする『尾瀬に一番近い学校』です。北にアヤマ平を望むことができます。スキー場と温泉を有する両地区は旅館や民宿などを営む家も多く、地域全体が温かく人を迎える雰囲気になり、学校に好意的かつ協力的です。地域の老人会や婦人会による支援は児童の学習活動はもちろん、学校行事やPTA活動を大いに支えてくれました。

片品村史によると、明治7年に東小川小学校土出分校として開校。翌8年土出小学校と改称(当時の学童25名)。その後いくつかの改称を経て明治41年の全村学校統合により片品尋常高等小学校土出分教場となり1学級4年までを置くことになりました。大正7年4月から尋常6年を置くことになり、昭和22年の学制改革により片品小学校土出分校となりました。一方、明治29年に発足した戸倉冬季教場は、明治43年片品尋常小学校戸倉分教場、昭和22年に片品小学校戸倉分校となりましたが、昭和30年に土出分校と統合して片品北小学校となり、片品小学校から独立しました。

2 学校の沿革

- 昭和30年度 土出分校(児童数143)と戸倉分校(児童数48)が統合して片品北小学校として独立。
- 昭和32年度 春の小運動会(昭和57年まで継続) 全校写生会(昭和58年まで継続) スキー大会(閉校年度まで継続)
- 昭和34年度 校内マラソン大会(以来閉校年度まで継続)
- 昭和35年度 体育館落成 新校歌披露
- 昭和39年度 独立10周年記念行事
- 昭和41年度 銚子明神小学校との夏と冬の交歓会開始
- 昭和44年度 雪祭り開催(平成3年度まで継続) 戸倉分校廃校式
- 昭和49年度 親子20分間読書推進校として研究発表
- 昭和51年度 独立20周年記念式典 「三分校のあゆみ」刊行 県指定体育研究公開参観実施
- 昭和52年度 保健体育優良校全国表彰受賞 6年生を送る会(以来閉校年度まで継続)
- 昭和55年度 アルペンとクロカンの両スキー大会を実施(以来閉校年度まで継続)
- 昭和56年度 新校舎落成
- 昭和57年度 4年生以上の「尾瀬学習」開始(山小屋宿泊) 新体育館落成
- 昭和60年度 独立30周年記念式典 『尾瀬花かるた』発表会 第1回尾瀬花かるた大会実施
- 平成4年度 スポ少の「尾瀬学習」実施(保護者参加は閉校年度まで継続)
- 平成12年度 尾瀬学習発表会開始(以来閉校年度まで継続)
- 平成13年度 北地区(土出・戸倉)との合同で秋季大運動会実施(以来閉校年度まで継続)
- 平成15年度 読み聞かせの会「ひなの会」発足
- 平成16年度 中庭の整備(木道設置) 独立50周年記念誌刊行
- 平成20年度 群馬県「生活科・総合的な学習の時間」授業研究会開催
- 平成25年度 「ふうきもうじ」(閉校記念特別号)刊行 閉校式の開催 閉校記念ソング披露



3 おわりに

「北小」の沿革は、数多くの特色のある教育活動に彩られた歴史でもありました。特に、「尾瀬学習」は、オリエンテーション→個々の学習テーマ設定→事前学習→現地学習→発表準備という段階を経て「尾瀬学習発表会」へとつながるものですが、地域の方々や尾瀬高生の指導・支援のもと3年生以上の児童の調べる力や表現する力を育成することができたと学校は自負しています。児童の新たな学校生活が、新しい友達とともに明るく楽しく有意義に展開されること、節目節目に作成された記念の品々を地域の方々が生きて置いて思い出の種にしてくださることを願っています。

閉校した中之条町立西中学校

中之条町立西中学校 (前) 校長 小野塚 則幸

1 はじめに

中之条町立西中学校は、平成26年3月をもって閉校し、昭和54年4月の実質統合以来35年間の歴史に幕を降ろしました。この間、2,300名余りの卒業生を輩出し、中之条町沢田地区から素晴らしい人材が世に巣立っていきました。閉校後は中之条中学校と統合し、新生「中之条中学校」として新たなスタートが切られました。現在、「そうめいえいち 聡明叡智」の校訓の下で育った西中生は、統合中学校という大きなステージで伸び伸びと活動し、校内に爽やかな風を吹き込んでくれています。

平成25年度は、「閉校」という特別な年度にあたり、全校生徒87名と職員が一体となり、「完全燃焼」を合い言葉に、中西中の締めくくりの有終の美を飾ろうと学校生活、部活動等に精一杯、真剣に取り組みました。その一端を学校の沿革とあわせてここにご紹介いたします。

2 沿革の概要

昭和22.4	・新学制により創立。沢田中学校と称し学区を二分し本校と四万分校とする。	昭和55.3	・校歌制定	・歌碑建立
昭和27.4	・四万分校は小学校と共に独立し、沢田村立四万小中学校となる。	昭和59.11	・武道館落成	
昭和41.4	・校名変更により、中之条町立第二中学校および第三中学校となる。	平成3.3	・県環境緑化コンクール優秀賞受賞	
昭和52.4	・第二中学校と第三中学校は統合し、中之条町立西中学校となる。名目統合のため沢田教場・四万教場と呼称する。	平成8.3	・新プール完成	
昭和54.3	・新校舎及び体育館落成	平成12.11	・県花いっぱい運動最優秀賞受賞	
昭和54.4	・中之条町立西中学校として実質統合	平成12.11	・生徒会が県青少年顕彰受賞	
		平成13.11	・県健康推進学校優良校表彰受賞	
		平成16.10	・英語教育研究開発校指定校発表	
		平成19.1	・優良PTA県教育委員会表彰受賞	
		平成26.3	・閉校記念式典挙行政	
			・閉校記念碑建立	

3 特色ある教育活動の取組の概要

(1) 花いっぱい運動への取組

昭和58年の「あかぎ国体」をきっかけに、30年以上にわたってサルビア・マリーゴールドの苗作りを行ってきました。地域の方とともに鉢上げ作業を行い、2万本以上の苗を育てて地域に配布し、花いっぱいの地域づくり、学校づくりに貢献してきました。



(2) 部活動への取組

小規模校ながら部活動が盛んで、毎年数多くの競技で県大会出場を果たしてきました。特に、女子バレーボール部や卓球部は関東大会、全国大会に出場した歴史があります。閉校年度も、女子卓球シングルスで関東大会出場を果たしました。まじめに粘り強く努力し、力をつけていく生徒が多く、先輩から受け継がれてきた中西中の良き伝統の表れでもあったと思います。

(3) 合唱への取組

西中学校では、毎日、帰りの学活の後、学級ごとに合唱練習に取り組んできました。各教室から気持ちのいい歌声が流れてきて、まさに「歌声の響く学校」でした。地域や保護者の方にも好評で、毎年秋にある校内文化祭の合唱コンクールを大勢が楽しみに待っていました。

4 おわりに

昨今、深刻な少子化社会のあおりを受け、へき地小規模校の存続が危ぶまれています。しかし中西中の取組のように、へき地学校の創り出す教育的価値は今後も尊重されていくべきでしょう。

Ⅱ へき地の学校経営

地域の達人に学ぶ伝統文化活動

片品村立武尊根小学校長 片山 雅資

1 学校の概要

本校のある片品村摺淵・幡谷地区は、県の北東部に位置し、片品村では一番南にあり沼田市利根町と接している。昨年11月に椎坂トンネルが開通したことにより、沼田インターへのアクセスが向上して交通の便が格段に良くなった。学区域は、農業に従事する人が多かったが、時代の変遷で会社・役場・JA勤めなどのサラリーマン世帯が増えている。しかし、まだ祖父母は農業をしている家庭が多い。学校は、武尊山を望む台地の上にあり、周りを山々に囲まれ、春の新緑・桜の花、夏の青空、秋の紅葉、冬の銀世界と自然豊かな地域にある。

本校は、昭和40年4月に片品小学校武尊根分校から独立し、片品村立武尊根小学校になって、今年度でちょうど50年目になる。当初、児童数94名6学級であったが、現在は、児童数12名3学級、教職員数10名（非常勤講師、公使等を含む）の小さな学校である。



2 学校教育目標

ふるさとを愛し、豊かな心と確かな学力を身に付け、心身ともに健康で正しい判断力とたくましい実践力を備えた、武尊根っ子を育成する。

3 学校経営の方針

- (1) よき伝統と校風の継承・発展による特色ある学校づくりの推進
- (2) 自他のよさを認め合い、助け合う「豊かな心」を育む人権教育の推進
- (3) 一人一人のよさを活かす指導による「確かな学力」と「自信」を付けさせる教育の実践
- (4) ねばり強く最後までがんばる気力・体力の向上を図る教育活動の推進
- (5) 教職員個々の職能成長と教育力・授業力の向上を目指した実践的な校内研修の推進
- (6) 保護者・地域との信頼関係に基づく「安全・安心で信頼される学校」づくりの推進
- (7) 服務規律を遵守し、保護者や地域に信頼され尊敬される学校づくりの推進

4 実践の概要

(1) 活動のねらい

日本の伝統文化に触れる体験活動を通して、伝統文化の素晴らしさを学び、日常生活の中に生かせる心豊かな子どもたちを育成する。

(2) 活動の概要

日本の伝統文化である俳句、八木節、華道、茶道などを地域の達人から体験を通して学ぶことで、日本の伝統文化に親しむと共に地域の方との触れ合いを通して、地域の子どもは地域で育てる開かれた学校運営を推進する。

(3) 活動の特徴

武尊根小学校には、開かれた学校づくりや魅力ある学校づくりを推進するために、学校長が

学校運営について幅広く意見を求めたり、学校関係者として評価・検討を求めたり、授業などの支援を求めたりするなど、教育活動充実のために設置した武尊根知恵袋委員会がある。知恵袋委員さんには、様々な学校の教育活動に協力と支援及びコーディネーターとして講師との調整などをしていただいている。それらの活動の主なものが、文章教室（俳句学習）・八木節教室・華道教室・茶道教室・読み聞かせなどである。

文章教室（俳句学習）は、「言葉をみがき、心をみがく」をスローガンに、日頃から言葉の大切さに気づき、日本語の素晴らしさを日常生活の中に活かせる心豊かな子どもたちにとの思いから行っている。子どもたちの作品づくりに際しては、子どもの発想を活かし言葉を変えない指導で、一人一人の子どもを認め、根気よく指導していただいている。（年間9回実施）

八木節教室は、地域との合同の秋季大運動会に向けての八木節踊りの練習として、生演奏で踊りを愛好会の方に指導していただいている。

華道教室は、身近な花を児童が持ち寄り、華道の基本を教えていただいて、異学年の縦割り班で、高学年の児童がリーダーとなって行っている。

茶道教室は、日本文化の心に触れる体験を通して、伝統のよさに気づき、望ましい人間関係を築こうとする態度を育てたいと、高学年の児童がお手前をして、低学年の児童にふるまう活動を行っている。



読み聞かせは、平成24年度より3年間、片品村が文科省より人権教育総合推進地域事業の指定を受けたのを機に、主に思いやりや友情などを主題にする物語や村の読み聞かせの会で作成した手作り紙芝居「永井紺周郎・いと物語」（養蚕指導をした郷土の偉人）などの読み聞かせを行っている。（年間9回実施）

地域の達人から日本の伝統文化について直接学ぶ活動を10年近く継続して実施している。このことにより、高学年の児童が活動のリーダーとなって、低学年の児童に優しく教えたり見本となる作品を仕上げたりできるようになり、成長の跡が見られる。また、地域の方が日常的に学校を訪問して指導することで、開かれた学校として機能している。

(4) 児童の取組の様子

児童は、毎月の文章教室や読み聞かせ、八木節教室・華道教室・茶道教室などを楽しみにしている。いつもは1～3名程度で学習しているので、全校児童12名で行う各種体験活動は、活動的で活気に満ちている。これらの体験活動に意欲的に取り組む児童の姿が見られる。

(5) 児童の変容

それぞれの体験学習では、異学年の班活動などを意図的に取り入れることにより、高学年としての自覚が生まれ特に6年生については、全校のリーダーとして低学年の児童に配慮した言動をとる場面が多く見られるようになった。また、感想や作品を発表することにより、改まった場面で緊張感のある活動になり、少人数を克服する貴重な機会となっている。

5 おわりに

日本の伝統文化に学ぶ学習は、特色ある武尊根小学校の教育活動の一つである。そこで、地域の貴重な人材であるそれぞれの達人による体験学習を、今までの伝統を活かしてこれからも継続していきたい。時代が変わっても大切にしなければならない日本人の心に触れる体験活動を、子どもたちに経験を通して学ばせると共に、その内容を更に充実させていきたい。

地域と連携した勤労生産学習・環境教育の推進

安中市立松井田北中学校長 石坂 克己

1 本校の概要

本校のある安中市は、群馬県南西部にある人口約60,000人の市である。江戸時代に板鼻・安中・松井田・坂本が中山道の宿場町として栄えたが、人口は平成12年頃の65,000人をピークに減少しており、15年後には50,000人を切ることが予想されている。人口の減少に伴い、市内の児童・生徒数も減少しており、一時期9,000人以上いた学齢期の子どもも現在では半分以下の4,400人ほどになっている。

本校は、安中市でも北西部の山間地にあり、市の中心部からは15kmほど離れたところに位置する。本校がある細野地区は昔から学校と地域のつながりが深く、学校・PTA・教育振興会（小中でひとつの組織）とが連携し、様々な学校行事や地域での活動さらには環境整備等を行っている。現在、本校の全校生徒数は41名である。全体的に素直でまじめな生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができている。



2 学校教育目標

自ら考え、正しく判断する力をもち、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。

3 学校経営方針

- (1) 基礎的・基本的な学力を確実に習得させ、自ら考え判断し積極的に表現する生徒を育てる。
- (2) 道徳教育・人権教育の充実を図り、互いに認め合い高め合える生徒を育てる。
- (3) 自ら運動やスポーツに親しみ、心身ともにたくましい生徒を育てる。
- (4) 確かな学力を向上させるために、教職員としての資質の向上と指導力の向上を図る。
- (5) 学校と地域・三会（細小PTA・北中PTA・振興会）の連携を図り、地域の学校として開かれた学校づくりを目指す。

4 実践の概要

- (1) 勤労生産学習・環境整備・環境保全活動の充実

本校においては、「地域の自然や人々とのふれあいを通して、地域を愛する心や地域に奉仕する心を育てる」「生徒の興味・関心を生かした主体的な活動を通して環境整備・環境保全に取り組む態度を育てる」「様々な体験活動を通して、協力することの大切さや存在感を味わわせる」をねらいとして、『学校農園での農作物の生産』『学校や地域・公共施設の清掃活動・環境整備』を行っている。

① 勤労生産学習

この学習は本校の伝統的な特色ある学習活動である。学校農園（約5アール）を利用して全

校生徒が4つの縦割り班に分かれ、班ごとに話し合っ
て決めた野菜の栽培を行っている。収穫
までの作物の管理は、生徒が主体的に行っている。
また、全班共通の作物としてサツマイモの栽培に
も毎年取り組んでいる。自然の恵みを感じそれを
守っていこうとする意識の高揚をめざすとともに
作物を生産することの難しさや働くことの喜びを
味わうことのできる学習になっている。地域の方
には年度の始めに農園を耕していただいたり、作
物の栽培についてアドバイスしていただいたりし
ており、地域の方々との交流の場にもなっている。



② 環境整備・環境保全活動

ア 通学路のごみ拾い活動「クリンクリンの日」

全校生徒が登校時に通学路のごみ拾いをしてきたり、更に登校後に学校周辺のごみを拾
ったりする活動である。生徒の提案で「クリンクリンの日」という愛称をつけ全校生徒に
呼びかけて、毎週木曜日に実施している。月に一度細小児童と協力して活動を行っている。

イ 地域への奉仕活動

地域の公共施設である「細野ふるさとセンター」の池や水路の清掃、庭の草むしりを毎
年2学期の始めに全校生徒で行っている。

ウ 除草作業

1学期に一度と夏休みの登校日に、学年ごとにグラウンドや校庭の除草作業を行ってい
る。環境美化委員が学年毎に使う道具を準備し、作業後は道具の数量点検や器具の手入れ
を行っている。また、地域の方々による小学校・中学校・地元の施設の除草作業が5月か
ら10月にかけて月1回（土曜又は日曜）行われている。生徒にボランティアの参加を呼び
かけると、毎回多くの生徒が意欲的に参加している。

(2) 小中連携

本校の生徒は、隣接する細野小学校を卒業した児童がすべてである。小学校1年生から中学
3年生までの9年間を一緒に過ごすことになる。お互いに気心が知れ、全体がひとつのファミ
リーのような地域である。少人数のため、自分の思いを口にしなくても意思の疎通ができるよ
うな場面もあり、表現力やコミュニケーション能力の面で課題がある。そこで、9年間を見通
し継続して計画的な指導ができるよう、小中の連携を積極的に進めている。

[小中連携の例]

- ・小中合同学校保健委員会(年2回開催される学校保健委員会のうち一度は合同開催する)
- ・小中合同芸術鑑賞会(演劇や音楽会などを年1回小中合同で実施)
- ・中学校の文化祭への小学生の参加。小学校の運動会への中学生の参加 等

5 終わりに

「学校と家庭と地域が一体となり子どもたちを育てる。」ということ、日々の学校生活の中
で強く感じるができる。子どもたちはこの地域で大事にされ、注目されながら成長している。
まさに、三位一体となった教育活動が展開されている。学校は地域や家庭の教育力を最大限に活
かしながら、地域や家庭が学校にかける思いに応えられるよう、全教職員で賢く・優しく・たく
ましい生徒の育成に努めていきたい。

Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

自分の考えを生き生きと表現できる児童の育成

～ICT機器を活用した授業づくりを通して～

長野原町立第一小学校長 唐澤 宏

1 学校の概要

本年度の児童数は、19名(男子7名、女子12名、9月現在)である。昭和34年の307名を最高に減少を続け、現在に至っている。八ッ場ダム建設計画により、平成14年8月より現校舎に移転した。鉄筋3階建の校舎とプール一体型の体育館を有し、校庭には200mトラックを設置している。平成15年度に初めて複式学級(3・4年)が置かれ、平成20年度から3学級の状態が続いている。来年度は11名の新入生を迎える予定であり、1・2年生の複式が解消する見通しである。

雄大な景観と豊かな自然に恵まれ、保護者・地域の期待と協力の下、児童は元気に育っている。複式解消非常勤講師の配当や、長野原町教育委員会のきめ細かい支援もあり、児童の学力の定着は良好であるが、少人数の学校であるため、社会性の発達に課題がみられる。

2 主題設定の理由

児童一人一人は素直で真面目であり、何事にも一生懸命に取り組むが、人との接触において消極的な傾向がある。従来の校内研修でも社会性を育てることを目的とした働きかけが行われてきている。本校の児童は、自分の考えを「持つ」ことはできるが、それを表現していく場が少ない。そこで、昨年度は「表現できる場」をたくさん設け、大勢の前での発言や発表することに慣れることが必要と考えた。自分の考えを表現する手段として、学校生活や学習活動の中に「話す場や活動」を意図的に取り入れて、表現力の向上を目指した。その結果、多くの児童が、発言や発表に対して苦手意識はあるものの、一生懸命に挑戦していこうという姿勢が見られるようになった。

本年度は「自分の考えを生き生きと表現できる児童の育成」という主題は継続し、副題を「ICT機器を取り入れた授業づくりを通して」として、手段としてのICT機器を活用し、各教科の基礎基本の定着を確実なものにしなが、個々の発展的な学習にも対応し、さらに自分の考えを生き生きと表現していける児童を育成していきたいと考え、本主題を設定した。

3 実践の概要

(1) 研究の方針

- 一人一授業をもとに「授業の視点」に的を絞った検討会を行い、授業力の向上を図る。
- 指導者のICT機器活用技能の向上を図る。
- コンピュータリテラシーの向上とともに、児童の情報リテラシーの向上を目指す。
- 「話す活動の場」を意図的に設ける。
- ICT機器活用と同時に体験的に学ぶ機会を積極的に設定する。

【本校のICT環境】PC室には、10台のPCと大型プリンタがある。サーバーPCは2台、校内LANを使って各教室からアクセスできる。タブレットとWi-Fiルーターを3教室に設置し、インターネットの情報や自分たちで取材してきた画像をTVに映し出せるようにしてある。4台のタブレットは、必要に応じて一つのクラスに集めて使うこともできる。TVは教育番組の視聴をするだけでなく、モニターとして教室設置のノートPCと書画カメラを常時接続している。また、プロジェクターは各教室に設置してあるので、大きく映し出すことも可能である。

(2) 授業実践

① 5・6年体育科「体づくり運動」

【授業の視点】グループに分かれて体の動きを考える場面において、映像を通して動きを客観的に見ることは、一つ一つの動きを確認するとともに、体を効果的に動かすのに有効であろう。

【授業の概要】仲間とともに音楽に合わせた体操を考え、発表する活動を行った。一つ一つの動きをタブレットで動画撮影をして客観的に見ることで、どの部位を動かす体操なのか把握しやすくし、より効果的な体操に改善できるようにした。



② 2年生活科「私の町大すき」

【授業の視点】よりよい発表にするための意欲を持たせる方法として、お互いのプレゼンテーションを見て意見を出し合うことは有効であろう。

【授業の概要】校外学習で調べてきたことをプレゼンテーションソフトを使って仲間に伝える活動を行った。2年生の実態から指導者の手が入ることが多かったが、伝えることの基本を学ばせることができた。友達の発表を「聞く視点」に沿って真似したところ、アドバイスしたいところなど指摘できていた。



③ 1年国語科「くじらぐも」

【授業の視点】想像を広げて読む場面において、教科書の場面をTVに映し出し、児童の意見を画面に打ち込む活動を取り入れれば、児童は自分の考えを素早く確認することができ、興味・関心を高め、楽しく学習に取り組むことができるであろう。

【授業の概要】TV画面にくじらぐもに乗った子どもたちを映し出し、3人の児童にそれぞれの想像したことを自由に発言させた。即座に文字化して画面に表示していくため、児童は発言の内容を確認することができ、活動に集中していた。この活動を取り入れることで、表現力豊かな音読につなげることができた。



④ 5・6年外国語活動

【授業の視点】自分の行きたい国を発表する場面において、デジタル教材を活用してゲームを行ったり、プレゼンテーションソフトを用いたりすることにより、積極的に発表したり聞いたりすることができるであろう。

【授業の概要】それぞれの児童が興味を持った国の国旗と食べ物・観光地などを画面に表示しながら紹介した。また、タブレットにはGoogle翻訳アプリがインストールしてあり、英語の発音を確かめさせたりもした。児童は新たな発見や感想などを意欲的に発表することができた。



(3) 本校の課題

本年度は、ICTの活用について各担任・担当のアイデアにより実践を進め、授業研究会で情報交換を行ってきた。今後、活用方法に系統性を持たせたり、より効果的で意図的な活用方法について研修を深めていったりする必要があると思われる。

4 おわりに

情報教育関係の活動は、山間へき地の学校であっても都市部と同様に取り組むことができる。授業内容の定着、発展的な学習の推進と同時に、正しい情報の扱い方も身に付けさせていきたい。

Ⅳ へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉 小学校

地域のよさを生かして豊かな心を育てる生徒指導

高崎市立倉渕小学校長 倉林 由恭

1 地域・学校の概要

本校は、平成23年4月1日に高崎市立倉渕東小学校、高崎市立倉渕中央小学校、高崎市立川浦小学校の3校を閉校・統合し、高崎市立倉渕中央小学校の場所に、高崎市立倉渕小学校が新設され今年度で4年目を迎える。児童数は、統合時143名であったが、本年度5月時点では109名で、傾向としては減少の方向に推移している。学級数は各学年1学級で、特別支援学級の1学級をあわせて全7学級、県費教職員数は12名である。

統合・新設にともない倉渕地区全域から児童が通学することになったため、路線バスやタクシーで通学する児童が86名いる。この数は、児童数の約8割にあたる。近隣は、猿や猪、熊など野生動物の生息地域もあり、常日頃より地域関係機関と連携しながら児童の安全確保に配慮している。

保護者や地域の方々は、倉渕地区1校の小学校ということもあり、学校に対して大変協力的で、地域をあげて大事な児童を育てていこうという支持的な風土がある。

2 生徒指導の方針

(1) 学校経営の方針

- ① 常に、学ぶ児童の立場に立ち、公教育の使命を自覚した教師の指導体制による、人間形成の基盤づくりを行い、保護者や地域の信頼に応える。
- ② 倉渕町内の幼小中の一層の連携（学力向上といじめ防止）を目指す。

(2) 生徒指導の方針

学校経営方針を受け、以下を本年度の生徒指導の方針としている。

- ① きめ細かな児童理解に努め、児童が自己決定する機会・場の設定を工夫する。
- ② 問題行動の早期発見、個々に応じたきめ細かな教育相談、情報の共通理解と支援の態勢をつくり、組織的、継続的に生徒指導に取り組む。特に、いじめのない学校づくりを推進する。
- ③ あいさつ・返事等の基本的な生活習慣を身に付けるとともに、大勢の前でも大きな声で話したり、校歌を歌ったりといった自己表現の強化に努める。

3 具体的な内容と方法

主なものは、以下の通りである。

(1) よりよい人間関係づくりに向けた調査と指導及び相談体制の確立

○年間2回のC&S検査の実施とスクールカウンセラー等による教育相談体制づくりなど

(2) 地域をあげた学力向上対策と小中連携の推進

○地域運営委員会による学力向上事業の実施と倉渕地区「子どもの発達と学びをつなぐ15年間」ガイドラインによる連携など

(3) 「いじめ防止プログラム」に基づくいじめ防止活動と人権教育の充実

(4) 異学年集団による縦割り班活動を生かした集団づくりの推進

○清掃活動と児童集会、「大明神山レクリエーション」の実施など

(5) 豊かな自然を生かした体験活動の推進

○6年生の森林保護学習・5年生の田植えと愛鳥学習・2年生のヤマメの放流など

4 実践の概要

上記の具体的な内容と方法について、その取組の一例を以下に示す。

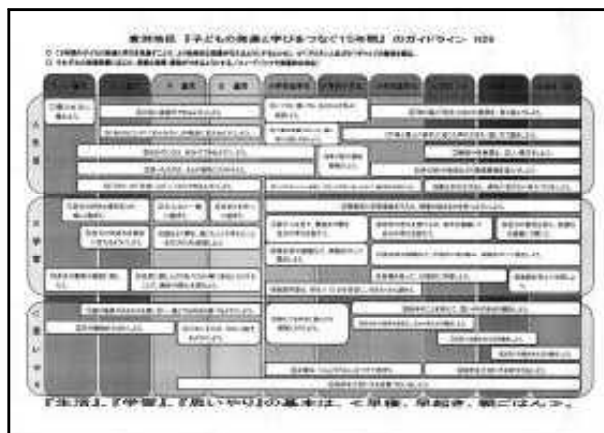
(1) よりよい人間関係づくりに向けた調査と指導及び相談体制の確立

本年度も6月と2月にC&S検査を実施し、学級内の人間関係の様子を客観的に把握すると共に、自己肯定感や学級の雰囲気に対して心配な児童を中心に担任とスクールカウンセラーが協力して相談活動を実施している。固定化された学年集団ならではの悩みの解消に向け早期対応を行っている。

(2) 地域をあげた学力向上対策の取組と小中連携の取組

地域の区長や学識経験者により構成された地域運営委員会を中心に地域ボランティアによる学力向上事業を今年度から実施している。月曜日の放課後と土曜日を利用し年間30回の学習会を開催している。正しい判断力や自己肯定感の高揚に基本的な学力の定着は不可欠であり、地域の力を借りながら学校の授業と連携して、学力向上を推進している。

また、本年度も倉渕地区「子どもの発達と学びをつなぐ15年間」ガイドラインを策定し、幼小中の各発達段階を貫く教育実践を行っている。



(3) 「いじめ防止プログラム」に基づくいじめ防止活動と人権教育強化月間の取組

高崎市は全校「いじめ防止プログラム」を作成し、教科・領域・学校行事を貫くいじめ防止に向けた指導を行っている。本校でも特に11月～12月の人権教育強化月間と連携した取組を実施している。児童会が中心になって策定した「友だちに親切にしよう」の目標のもと、友だちの親切を書いた一葉一葉を「感謝の木」として育てようという活動を中心に、道徳や学級活動でも「思いやりの心を育てる」ことを目指して指導を行っている。



(4) 縦割り班活動を生かした取組

各学年単学級のため、児童に社会性を育てたり、人間関係などのかかわりの機会を増やすために、本校では清掃活動や児童集会など異学年集団である縦割り班で行うことが多い。中でも10月に実施している「大明神山レクリエーション」は縦割り班で地域内めぐりを行うが、計画づくりから史跡の説明等を高学年が中心となって行っている。自己決定の場とリーダーシップを発揮する場として位置づけている。



(5) 豊かな自然を生かした体験活動

毎年6年生の森林保護学習・5年生の田植えと愛鳥学習・2年生のヤマメの放流など豊かな自然を生かした体験活動を行い、郷土を愛し自然を大切にする児童の育成を推進している。

5 おわりに

自然に恵まれた本校の児童であるが、最近はゲーム機やスマートフォンの普及に伴い、SNS利用における問題も散見されるようになった。今後の指導の重点として保護者の理解と協力の下、今後も保護者への啓発を続けるとともに、児童への指導も重ねて行い、児童全員が安心して生活できる学校づくりを進めていきたい。

〈2〉 中学校

自治的活動をめざす生徒主体の学校づくり

高山村立高山中学校長

菅谷 礼示

1 地域・学校・生徒の実態

高山村は吾妻郡の東端に位置し、北と東はみなかみ町と沼田市に接し、南は渋川市に繋がっている四方を山に囲まれた高原の村である。自然に恵まれた環境とともに関越自動車道や新幹線の利用で東京までは1時間半程度で到着でき、交通網の整備とともに生活しやすい環境である。人口約4000人、小・中学校は1校ずつ。中学2年生を対象に、希望者全員が海外派遣事業（シドニー市郊外に1週間のホームステイ）に参加できるなど、教育に大変熱心な村である。また、1園・1校の長所を生かし、幼小中12年間を見通した本村の一貫教育の具現化に向け取組が始まった段階である。

本校は、生徒数115名、6学級（普通5，特支1）の小規模校である。標高約550mの広大な緑あふれる敷地内で生徒は伸び伸びと学校生活を送っている。東日本大震災後の物資不足の時に自力通学を奨励した。校区は広く平坦な道はほとんどないが、今年度は約100名の生徒が自転車通学をしており、自力通学が定着するとともに生徒の気力や体力も向上している。

2 生徒指導に関わる本年度の努力点

(1) 心の教育の充実

- ① いじめ防止活動に関係機関と連携し計画的に行っていく。生徒会主体の啓発活動や体験活動を主な活動に位置づけ、学校・家庭・地域と連携して「いじめのない学校づくり」に取り組む。
- ② 全校花作り活動を通して、「生命を尊重する態度」や「思いやりの心」を育てる。

(2) 生徒指導の充実

- ① 教師と生徒、生徒と生徒の信頼関係を基盤に、けじめある生活態度の育成や規範意識の向上をめざす。
- ② 生徒指導の3機能（自己存在感・共感的人間関係・自己決定）を生かした授業づくりを行い、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。
- ③ 日頃から全教職員が情報の共有と対応の共通理解を図り、問題行動に対しては迅速かつ誠実な対応を行い、早期解決をめざすとともに、今後の生活に生かせることを配慮した発展的な指導を行う。また、家庭や関係機関と緊密な連携が図れる態勢づくりを行う。
- ④ スクールカウンセラーによる個人面談や教育相談の充実を図る。

3 具体的な取組

(1) 生徒会主体の「いじめのない学校づくり」の取組

- ① 寸劇を観て考える…生徒集会で生徒会本部役員がいじめを連想させる寸劇を行い、その場で全校生徒はワークシートに感想やあるべき姿について記述し、代表者が発表する。
- ② いじめ防止フォーラムの報告と決意表明…生徒集会でフォーラム参加者（生徒会長）が報告と決意表明を行う。



- ③ 生徒玄関であいさつ運動(毎朝)、さわやかあいさつ運動(月1回)…生徒会本部役員が毎日朝練習終了後、生徒玄関に集合し、登校する生徒に「おはようございます」と声かけを行う。また、さわやかあいさつ運動は、月1回村青少推の方とともに、登校時に取り組む。



④ いじめ防止子ども会議の開催と報告

生徒会本部役員が高山小学校児童と「いじめ防止子ども会議」を開催し、中学生が進行役となってテーマについて話し合いを行い、今後の具体的取組を決議する。後日、集会の場で全校生徒に決定事項を報告するとともに全校生徒に具体的な協力を求める。



(2) 規律ある学校生活、生徒がはつらつとした学校づくり
(生徒会本部役員の活動)

① 下校時刻を守るための取組

下校時刻約10分前に、生徒会本部役員が時間を厳守し安全に下校するよう放送で呼びかける。2学期の放送は「まもなく下校時刻になります。生徒の皆さんは反射タスキをかけ、すみやかに下校しましょう。ごきげんよう。」など、生徒が考えた呼びかけを行っている。

また、ほとんどの生徒が自転車通学のため、安全運転に配慮した内容にもなっている。

◆教員の下校指導より、生徒は表情よく時間内に下校している。

② 生徒会新聞の発行

生徒会本部役員が月1回程度発行している。生徒に寄り添った記事や激励する内容が多く生徒の力で生徒が育っている取組の一つである。

(3) 故郷に愛着を持ち、豊かな心を育てる取組

① パンジー栽培(花プロジェクトの一環)

地元の中之条高校3年生の協力のもと、1年生が種まきから鉢上げ、花壇への植え付けを行い、翌年の春まで咲き誇るパンジーを見ながら登下校している。さらに、地域活動として幼稚園の花壇にも園児とともに苗を植える交流活動を行っている。園児も、中学生と一緒に作業を楽しみにしている。



② 天体観測会(光プロジェクトの一環)

地元のぐんま天文台に依頼し、夜間だけでなく昼間も天体観測会の出前授業をしていただいている。今年は、金星の満ち欠けや太陽の黒点、プロミネンスの観測を行った。冬には、ぐんま天文台へ行き、澄みきった夜空で天体観測会を行う。



③ 写生画の描き方を学ぶ(芸術プロジェクトの一環)

吾妻出身で本校勤務の経験のある画家、脇屋主三先生に講師を依頼し、写生画の描き方について技術指導を受ける「絵画教室」を開催している。今年度は写生画になりそうな風景写真をもとに「できるだけ写真に忠実に描いてみよう」をテーマに午後の2時間を絵画制作の実習に取り組んだ。

◆生徒は、この学習の後「芸術の日」で写生画の制作に取り組む。



第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



～第63回全国へき地教育研究大会群馬大会 分科会より～

I 平成26年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育連盟研究部長

上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

1 平成26年度へき地学校教育

平成26年度の県内のへき地学校は、休校中の2校を含め44校、児童生徒数は3484名、教職員数523名である。へき地学校の児童生徒の占める割合は県内全体の2.2%で、昨年と比べると校数は2校減、児童生徒数で258名の減、教職員は22名の減少である。(学校統合のため)。

今年度は、第63回全国へき地教育研究大会群馬大会が10月23日(木)～24日(金)に開催されたため、例年実施しているブロック別実践研究集会を開催せず、ブロック内の分科会会場校のサポートにあてた。また、第63回群馬県へき地教育研究大会および第16回関東甲信越へき地教育研究大会群馬大会は、全国大会と兼ねての開催とした。また、全国へき地教育研究大会群馬大会を開催するにあたり、9回の実行委員会議を開催し対応した。

2 第63回全国へき地教育研究大会群馬大会分科会会場校

県内の分科会会場校は、以下の通りである。「」は、研究主題。

A分科会…高崎市立宮沢小学校(山田久徳 校長、学級数6、職員数11、児童数51名)

「自らの考えを言葉を用いて分かりやすく伝え合うことができる児童の育成」

～各教科等における思考力を伸ばす言語活動の工夫に視点を当てて～

B分科会…上野村立上野中学校(飯出哲夫 校長、学級数4、職員数11、生徒数31名)

「主体的に学ぶことのできる生徒の育成」～学び合い活動の工夫を通して～

C分科会…高山村立高山小学校(田村典彦 校長、学級数11、職員数18、児童数197名)

「自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成」

～聴き合い、つながり合う授業づくりを通して～

D分科会…東吾妻町立坂上小学校(中沢雅紀 校長、学級数7、職員数14、児童数80名)

「深く考え、よく学び合う児童の育成」

～気付きを考え共に学ぶ指導の工夫を通して～

E分科会…嬭恋村立東部小学校(地田功一 校長、学級数12、職員数21、児童数225名)

「互いに認め合い、高める児童の育成」

～地域を大切にしたい授業づくりの工夫を通して～

F分科会…長野原町立応桑小学校(山口 廣 校長、学級数6、職員数12、児童数62名)

「ふるさとのよさを生かし 自ら学ぶ心豊かな児童の育成」

～くわっ子タイムの活動を生かして～

G分科会…中之条町立六合中学校(黒岩祐子 校長、学級数4、職員数11、生徒数37名)

「自らの考えを伝え、互いを認めて高めあえる生徒の育成」

～学び合える表現活動の充実を通して～

H分科会…昭和村立大河原小学校(遠藤由理子 校長、学級数7、職員数12、児童数74名)

「自分の思いや考えを表現し、高め合う児童の育成」

～伝え合う活動の工夫を通して～

I分科会…沼田市立利根中学校(角田和志 校長、学級数4、職員数12、生徒数97名)

「自他のよさを認め合える生徒の育成」

～協同的な学びを取り入れた学習を通して～

3 研究、研修の概要

(1) 広報「県へき連」第76、77号発行。

(2) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第63集発行。

II 第63回全国へき地教育研究大会（群馬大会）

＜1＞ 概 要

第63回 全国へき地教育研究大会群馬大会
 第16回 関東甲信越へき地教育研究大会群馬大会
 第63回 群馬県へき地教育研究大会
 開催要項

1 開催の趣旨

へき地・小規模・複式学級を有する学校経営、学習指導及び生徒指導上の諸問題について研究協議するとともに、全国各地におけるへき地教育の研究成果を交流し、へき地教育の充実を図る。

2 研究主題

- (1) 全国へき地教育研究連盟第8次長期5か年研究推進計画主題
 『ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成』
 ～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした
 学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～
- (2) 関東甲信越へき地教育研究連盟研究主題
 『ふるさとのよさに学び、新しい時代をたくましく生きる心豊かな子どもの育成』
- (3) 群馬県へき地教育研究連盟研究主題
 『ふるさとのよさを生かし、社会で通用する力を持った子どもの育成』
 ～へき地・小規模校の特性を生かし、地域との関わり方や学習活動の工夫を通して～

3 主 催

文部科学省 群馬県教育委員会 全国へき地教育研究連盟
 関東甲信越へき地教育研究連盟 群馬県へき地教育研究連盟 群馬県へき地教育振興会
 前橋市教育委員会 高崎市教育委員会 沼田市教育委員会 渋川市教育委員会
 安中市教育委員会 上野村教育委員会 神流町教育委員会 南牧村教育委員会
 中之条町教育委員会 長野原町教育委員会 嬭恋村教育委員会 草津町教育委員会
 高山村教育委員会 東吾妻町教育委員会 片品村教育委員会 昭和村教育委員会
 みなかみ町教育委員会

4 後 援

関東甲信越各県教育委員会 群馬県 前橋市 高崎市 沼田市 渋川市 安中市
 上野村 神流町 南牧村 中之条町 長野原町 嬭恋村 草津町 高山村 東吾妻町
 片品村 昭和村 みなかみ町 群馬県市町村教育委員会連絡協議会 群馬県都市教育長協議会
 群馬県町村教育長会 群馬県小学校長会 群馬県中学校長会 群馬県小中学校教育研究会
 群馬県小中学校PTA連合会 公益財団法人日本教育公務員弘済会群馬支部

5 基本日程

【1日目】10月23日(木)

8:50	9:20	10:00	10:25	12:30	13:40	15:40
受付	開会式	休憩	基調報告 記念講演 アトラクション 次期開催県挨拶	移動 昼食 休憩	分散会 (6分散会場)	宿舎へ バス移送

【2日目】10月24日(金)

8:30	8:50	10:40	11:00	12:20	12:30	13:20
受付	公開授業 I・II	休憩	分科会 開会行事 研究発表 研究協議	閉会式	昼食 休憩	最寄りのJR駅へバス移送

※第2日目は、分科会場（公開授業校）によって日程が一部変更になる場合があります。
 ※10月22日（水）に、全国へき地教育研究連盟理事会・秋季総会、交流会が開催されます。

6 会 場

【1日目】10月23日(木)

◆全 体 会 群馬音楽センター

- (1) 開 会 式 9:20
- (2) 基 調 報 告 10:25 全国へき地教育研究連盟研究部長
群馬県へき地教育研究連盟研究部長
- (3) 記 念 講 演 10:40 演 題 『小さな芽生え、大きな挑戦』
講 師 アルバールビル、リレハンメル両冬季オリンピック ノルディック複合団体金メダリスト
北野建設株式会社スキー部ゼネラルマネージャー 荻原 健司 氏
- (4) 次期開催県挨拶 11:45 熊本県
- (5) アトラクション 12:00 器楽演奏（一人一楽器） 出演：高崎市立倉渕中学校全生徒
演奏曲 『小栗のまなごしー小栗上野介公に捧ぐー』
(福田洋介氏作曲による倉渕中学校オリジナル曲)

◆課題別分散会 13:40

	第1分散会 ホワイトイン高崎 5階グレイス	第2分散会 ホワイトイン高崎 5階かたらい	第3分散会 高崎ビューホテル 3階あかぎⅢ	第4分散会 高崎ビューホテル 2階HARUNA	第5分散会 高崎ビューホテル 3階あかぎⅠ	第6分散会 高崎ビューホテル 3階あかぎⅡ
発表1 全国ブロック	中国・四国 広島県	東海・北陸 石川県	近 畿 奈良県	東 北 岩手県	九 州 長崎県	北 海 道 白老郡
発表2 関東甲信越ブロック	長野県 長野市	新潟県 長岡市	山梨県 北都留郡	東京都 新島村	茨城県 かすみがうら市	栃木県 矢板市

【2日目】10月24日(金)

◆分科会（公開授業）会場校

	会 場 校 名		会 場 校 名
A	たかさきしりつみやざわ 高崎市立宮沢小学校	F	ながのはらちょうりつおうくわ 長野原町立応桑小学校
B	うえのそんりつうえの 上野村立上野中学校	G	なかのじょうちょうりつくに 中之条町立六合中学校
C	たかやまそんりつたかやま 高山村立高山小学校	H	しょうわそんりつおおかわら 昭和村立大河原小学校
D	ひがしあがつまちょうりつさかうえ 東吾妻町立坂上小学校	I	ぬまたしりつとね 沼田市立利根中学校
E	つまごいそんりつとうぶ 嬭恋村立東部小学校		

全 体 会 次 第

司 会：群馬大会副実行委員長 並木 伸一

1 開 会 式

- | | | |
|---------------|--|---------------------------------|
| (1) 開会のことば | 群馬大会実行委員長 | 吉野 隆哉 |
| (2) 国歌斉唱 | 指揮 安中市立松井田北中学校教諭
伴奏 安中市立細野小学校教諭 | 松坂 理美
飯塚 弘美 |
| (3) へき地教師の歌斉唱 | 指揮 安中市立松井田北中学校教諭
伴奏 安中市立細野小学校教諭 | 松坂 理美
飯塚 弘美 |
| (4) 主催者あいさつ | 文部科学省初等中等教育局視学官
群馬大会会長・群馬県教育委員会教育長
全国へき地教育研究連盟会長
群馬県へき地教育振興会長 | 太田 光春
吉野 勉
伊井 一雅
星野已喜雄 |
| (5) 来賓祝辞 | 群馬県知事
高崎市市長 | 大澤 正明 様
富岡 賢治 様 |
| (6) 来賓紹介 | 群馬大会副実行委員長 | 宮崎 光男 |
| (7) 祝電披露 | 群馬大会実行委員会総務部長 | 片山 雅資 |
| (8) 閉会のことば | 群馬大会副実行委員長 | 宮崎 光男 |

2 基 調 報 告

全国へき地教育研究連盟研究部長	河田 茂
群馬県へき地教育研究連盟研究部長	飯出 哲夫

3 記 念 講 演

演題	「小さな芽生え、大きな挑戦」 ～オリンピックの原点・ふるさと～	
講師	アルベールビル・リレハンメル両オリンピック ノルディック複合団体金メダリスト 北野建設株式会社スキー部 ゼネラルマネージャー	荻原 健司 氏
講師紹介	群馬大会実行委員会総務副部長	角田 和志
花束贈呈	群馬大会実行委員会会計副部長	中島 誓子

4 次年度開催地挨拶・紹介並びに大会旗引継ぎ

- | | | |
|----------------|----------------------|----------------|
| (1) 次年度開催地あいさつ | 熊本大会実行委員長 | 谷田敬一郎 |
| (2) 次年度分科会場紹介 | 熊本大会研究部長 | 森元 祐二 |
| (3) 大会旗引継ぎ | 群馬大会事務局長
熊本大会事務局長 | 小野 和好
淵田 尚史 |

5 アトラクション

器楽演奏（一人一楽器） 出演：高崎市立倉淵中学校3年生
演奏曲『小栗のまなざし ー小栗上野介公に捧ぐー』
（福田洋介氏作曲による倉淵中学校オリジナル曲）

- | | | |
|-------|----------|-------|
| 6 諸連絡 | 群馬大会事務局長 | 小野 和好 |
|-------|----------|-------|

課題別分散会発表校（全国ブロック）

分散会	領域	全国第8次研究推進計画研究課題	全国ブロック		
			学校名	校長・発表者	研究主題等
1	学校・学級経営の深化・充実	<p>－課題1－</p> <p>家庭や地域と連携する育と特色ある教育の推進を図る</p>	<p>広島県</p> <p>〒727-0301 庄原市比和町比和1020 庄原市立比和小学校 hiwa-elem@city.shobara.hiroshima.jp</p>	<p>校長 日雨孫厚子 発表者 中田 清香</p> <p>TEL 0824-85-2124 FAX 0824-85-2131</p>	<p>「主体的な学び合いによる授業づくり」 ～国語科の学習を通して～</p> <p>学級数 単式4学級 複式1学級 児童数 55名</p>
2		<p>－課題2－</p> <p>ふび代が学級とを創る</p>	<p>石川県</p> <p>〒929-0464 河北郡津幡町字山北ワ116 津幡町立笠野小学校 kasano-es@m2.spacelan.n.e.jp</p>	<p>校長 中田 一朗 発表者 河本 直美</p> <p>TEL 076-288-8651 FAX 076-288-8652</p>	<p>「ふるさとよさを生かし、たくましく生きぬく力をもつ心豊かな児童の育成」</p> <p>学級数 単式2学級 複式2学級 特支学級1学級 児童数 34名</p>
3		<p>－課題3－</p> <p>地域に根ざし、家庭や地域と連携する育と特色ある教育の推進を図る</p>	<p>奈良県</p> <p>〒637-1558 吉野郡十津川村出谷416-2 十津川村立西川第二小学校 nishi2-e@totsukawa-nara.ed.jp</p>	<p>校長 浜岡 良一 発表者 稲田 学</p> <p>TEL 0746-64-0347 FAX 0746-64-0355</p>	<p>「一人一人が「わかった」「できた」を実感できる授業をめざして」 ～自分に自信をもち、生き生きと活動する子どもを育てる教育活動の推進～</p> <p>学級数 単式学級1学級 複式学級1学級 児童数 5名</p>
4		<p>－課題4－</p> <p>児童の個性を伸ばすための指導の充実を図る</p>	<p>岩手県</p> <p>〒020-0202 盛岡市玉山区玉山字田畑1-19 盛岡市立城内小学校 e9061@city.morioka.iwate.jp</p>	<p>校長 田中 淳 発表者 山本 公恵</p> <p>TEL 019-685-2301 FAX 019-685-2675</p>	<p>「意欲的に学ぶ子どもを育てるための指導」 ～横断的な学習における活用を意識した実践を通して～</p> <p>学級数 単式1学級 複式2学級 児童数 16名</p>
5		<p>－課題5－</p> <p>学習意欲の向上を図る</p>	<p>長崎県</p> <p>〒859-2112 南島原市布津町乙1676-1 (本校の住所です) 南島原市立布津小学校第一分校 futsu-es@minami-shimabara.jp</p>	<p>校長 池田 直也 発表者 谷口美佐子 TEL 050-3381-5010 FAX 0957-72-2058 (本校連絡先)</p>	<p>「表現することを楽しみ、共に高め合う児童の育成」 ～地域・仲間と関わりながら表現力を育てる実践活動を通して～</p> <p>学級数 第一分校：単式1学級、複式1学級。第二分校：単式1学級、単式1学級。本校：単式6学級、特支学級1学級。 児童数 第一分校17名、第二分校11名。本校136名</p>
6		<p>－課題6－</p> <p>課題意識をもつ仲間と高め合う学習の充実を図る</p>	<p>北海道</p> <p>〒059-0901 白老郡白老町社台100 白老町立社台小学校 shadai-sho@town.shiraoi.lg.jp</p>	<p>校長 新谷 雅宏 発表者 栗田 悠</p> <p>TEL 0144-82-2149 FAX 0144-82-2149</p>	<p>「確かな学力を身に付ける子ども育成」 ～少人数の特性を生かした算数科教育実践を通して～</p> <p>学級数 単式2学級 複式2学級 特支学級3学級 児童数 30名</p>

課題別分散会発表校（関東・甲信越ブロック）

分散会	領域	全国第8次研究課題	関東・甲信越ブロック		
			学校名	校長・発表者	研究主題等
1	学校・学級経営の深化・充実	—課題1— 家庭や地域と連携する育と推進を図る	長野県 〒381-3203 長野市中条2770 長野市立中条小学校 nakajoujs@nagano-ngn.ed.jp	校長 轟 裕明 発表者 渡邊 忠雄 TEL 026-267-2016 FAX 026-267-2809	「相手や目的に応じて、わかりやすくすすんで表現する力を育成するための指導のあり方」 ～書く活動を中心に～ 学級数 単式6学級 特支学級1学級 児童数 67名
2		—課題2— ふび代か学級と	新潟県 〒949-5215 長岡市小国町新町673 長岡市立小国中学校 j22oguni@kome100.ne.jp	校長 上野 忠英 発表者 渡邊 健実 発表者 岩島 剛 TEL 0258-95-3121 FAX 0258-95-3120	「小国の将来を担う人材の育成」 ～自己有用感を育てる総合学習での取組～ 学級数 単式5学級 特支学級2学級 生徒数 120名
3		—課題3— 地域に根ざし、とたくのを	山梨県 〒409-0211 北都留郡小菅村4590 小菅村立小菅中学校 kosuge.j@isis.ocn.ne.jp	校長 渡辺 信 発表者 萩原 義晃 TEL 0428-87-0234 FAX 0428-87-0452	「自分を表現できる生徒の育成」 ～学校教育全体における自己指導能力の育成を通して～ 学級数 単式1学級 複式1学級 特支学級1学級 生徒数 12名
4		—課題4— 児童の伸びを導く	東京都 〒100-0511 新島村式根島166 新島村立式根島中学校 shikicyu@nijima.com	校長 洪谷 俊昌 発表者 吉崎 洋司 TEL 04992-7-0017 FAX 04992-7-0579	「少人数・小規模校における意欲的に学ぶ生徒の育成」 ～式根島の教育環境を生かした施設分離型小中連携教育の充実～ 学級数 単式3学級 生徒数 11名
5		—課題5— 学習意欲の向上と基礎的・	茨城県 〒315-0065 かすみがうら市上左谷1837 かすみがうら市立上左谷小学校 kamisaya@edu.city.kasumigaura.ibaraki.jp	校長 小林 学 発表者 菊池 良平 TEL 0299-59-2004 FAX 0299-59-6572	「学習意欲の向上と基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る指導の在り方」 ～個に応じたきめ細かな指導を通して～ 学級数 単式2学級 複式2学級 児童数 42名
6		—課題6— 課題意識をもつ仲間と高めよう	栃木県 〒329-1574 矢板市乙畑1902 矢板市立乙畑小学校 otsuhatasho@city.yaita.tochigi.jp	校長 中村 宏明 発表者 日下部 倫弘 TEL 0287-48-0610 FAX 0287-48-3391	「できる・分かる・楽しい授業の創造」 ～小規模校の特性を生かした学習指導～ 学級数 単式4学級 複式1学級 児童数 57名

○大会開催までの取組

○平成23年度

月	日	曜	会 議 名	主 な 内 容
8	8	月	第1回準備会	全国大会概要 実行委員会設置要綱(案)
9	14	水	第2回準備会	役員組織 開催概要(案)
12	1	木	第3回準備会	H24実行委員会日程 分科会会場校の決定手順
12	15	木	全国大会開催依頼	全へき連会長・事務局長来県 県教委へ依頼
3	6	火	第4回準備会	実行委員会設置要綱決定 組織図 スケジュール

○平成24年度

月	日	曜	会 議 名	主 な 内 容
5	18	金	第1回実行委員会	実行委員会役員 組織図 主なスケジュール決定
6	29	金	第2回実行委員会	大会期日仮決定 全体会場仮決定
9	13	木	第3回実行委員会	大会期日決定 全体会場決定 取扱旅行業者決定
12	4	火	第4回実行委員会	第61回和歌山大会報告 主催・参加要請範囲
3	6	水	第5回実行委員会	全体会駐車場 分散会場 分科会授業 次年度会議
3	27	水	事務局会議	県教委と県へき連役員 内容検討・確認

○平成25年度

月	日	曜	会 議 名	主 な 内 容
5	16	木	分科会授業公開校対象概要説明会	全国大会の概要説明、群馬大会の構想説明等
			第1回実行委員会	実行委員決定 アトラクション決定 第1次案内(案)
6	28	金	第2回実行委員会	第1次案内(案)の検討、9月発送確認 大会構想
8	6	火	第3回実行委員会	全体会講師(案) 県内参加要請範囲決定
9	12	木	第4回実行委員会	全体会講師選出 指導案形式 第1次案内発送準備
11	1	金	第5回実行委員会	全体会講師決定 全体会会場借用品等
12	3	火	第6回実行委員会	第62回三重大会報告 研究内容 第2次案内(案)検討
1	28	火	第7回実行委員会	分科会予算・業務内容 研究構想 看板等
3	6	木	第8回実行委員会	予算書検討 次年度会議計画等

○平成26年度

月	日	曜	会 議 名	主 な 内 容
5	20	火	第1回実行委員会	実行委員決定 第2次案内 申込方法 運営計画
6	27	金	第2回実行委員会	申込途中経過 来賓名簿 アンケート 運営計画等
8	5	火	第3回実行委員会	申込確認 参加費振込状況 運営の手引き検討
9	2	火	臨時実行委員会	各部からの提案検討(準備・進行・マニュアル等)
9	11	木	第4回実行委員会	手引き作成作業 各部からの提案検討
10	7	金	第5回実行委員会	参加者確認 名簿 各部からの提案検討
10	15	水	第6回実行委員会	大会準備品・担当最終確認 マニュアル最終確認
10	22	水	理事会・総会	22日理事会・総会・交流会
	23	木	～24(金)群馬大会	23日全体会・分散会 24日分科会
11	11	火	第7回実行委員会	大会の反省 アンケート 会計処理 報告書 礼状
12	3	火	第8回実行委員会	大会反省・総括 次期開催県への引継
3	5	木	第9回実行委員会	大会総括 報告書

〈2〉 全体会報告

群馬県へき地教育連盟研究部長

上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

第63回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、群馬県教育委員会、全国へき地教育研究連盟等の主催により、平成26年10月23日(木)～24日(金)の2日間にわたって群馬県高崎市で開催された。

1日目は、高崎市の群馬音楽センターを会場に、全国のへき地・小規模校・群馬県内各学校の参加者総数1100名のもと盛大に開催された。第1日目の全体会について報告する。

1 開会式

全体会開会式は、吉野隆哉群馬大会実行委員長の開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱した(指揮：松坂理美松井田北中教諭、伴奏：飯塚弘美細野小教諭)。続いて主催者として、太田光春文部科学省初等中等教育局視学官、吉野 勉 群馬県教育委員会教育長、伊井一雅全国へき地教育研究連盟会長の挨拶があった。その後、大澤正明群馬県知事、富岡賢治高崎市長から来賓代表の祝辞をいただいた。

2 基調報告

基調報告では、まず河田 茂 全国へき地教育研究連盟研究部長から以下のような報告があった。

(1) 第7次までの研究推進計画についての成果と課題についての説明

(2) 第8次長期5か年研究推進計画についての説明

(3) 三重大会の成果と課題についての説明

(4) 群馬大会の意義と位置づけについて

①昭和49年からの長期研究推進の累積・継承・発展 “全国はひとつ”

②第8次長期5か年研究推進計画初年度の研究推進に向けた新たな取組の実践

③新学習指導要領の主旨を踏まえて

④関東甲信越地区へき地教育研究大会のねらいの達成

続いて、飯出哲夫群馬県へき地教育研究連盟研究部長から群馬大会の基調報告について以下のような報告があった。

(1) 群馬県の概要について説明

(2) 群馬県のへき地・複式教育について

①群馬県のへき地教育の歩みと研究活動の現状について

・群馬県へき地教育研究大会 ・ブロック別実践研究集会 ・「板木」、広報「へき連」の発刊について 等の説明

②本県のへき地指定校・複式学級を有する学校の状況についての説明

(3) 群馬大会について

①群馬大会を迎えるにあたっての取り組みについて説明

②研究主題、大会スローガン、研究構想について説明

③成果と課題についての説明

④分科会会場校の紹介

3 全体講演

基調報告に続いて、全体講演を行った。講演会の様子は下記の通りである。

演題：「小さな芽生え、大きな挑戦」～オリンピックの原点・ふるさと～

講師：アルペールビル・リレハンメル両オリンピック金メダリスト

北野建設株式会社スキー部ゼネラルマネージャー 荻原 健司 氏

<講演内容>

私は、群馬の温泉地「草津」で生まれた。私にとってスキーは特別なことではなく、遊びの一部であった。幼い頃から暇さえあればスキーをしており、スキーの楽しさ、おもしろさを存分味わっ

た。今は、そのスキーが仕事になったのでとても幸せを感じている。小学5年でスキー少年団に入り、本格的にスキーを始めたが、その頃は、スキーでオリンピック出場を夢見ていたわけではない。むしろ、将来はアイドルになりテレビに出るような有名人になりたかった。その夢を叶えるためにどうしたらよいか父親に相談したとき「そんなの簡単だよ、スキー選手になり、オリンピックで金メダルを取れば毎日テレビに出られるぞ」と言われた。それを聞いた時「スキーなら俺にもできる。」という思いがあり、完全に心のスイッチが入りその後の活動につながった。何気ない言葉でも人を変える力があり、とても大切であると感じている。

私は今、会社で5人のスキー選手の面倒を見ている。その選手にかける言葉についてはいつも気を遣っている。そんな言葉がけの中でも特に心にとめていることは選手のことを「認め、褒める」ことだ。人間誰しも、認めてもらいたいという気持ちがある。認められることがその後の努力することのエネルギーやモチベーションにつながっていく。我々大人や指導者ができることはほんのわずかなことでしかない。自分のやっていることが認められることが一番のエネルギーになり、人は頑張れ、成長していく。

最後に、私が今までスキーをやってきて一番のエネルギーになった言葉がある。それは「ありがとう」という言葉だ。金メダルを取ったとき、多くに人々から「ありがとう」という言葉をいただいた。その言葉をかけられた時、「よし！俺はもっと多くの人々に、『元気が出たよ』『勇気もらったよ』と言われるような活動をしていこう。」という気持ちになった。皆さんも子どもたちに接する中で「ありがとう」という魔法の言葉を使って、子どもたちを大きく伸ばしていただきたいと思います。



4 次期開催地挨拶・紹介並びに大会旗引き継ぎ

全体講演に引き続き、次期開催地挨拶が谷田敬一郎熊本大会実行委員長より行われた。次に、次年度分科会会場校紹介が森元祐二熊本大会研究部長より行われた。その後、小野和好群馬大会事務局長から澁田尚史熊本大会事務局長へ大会旗の引き継ぎが行われた。

5 アトラクション

アトラクションは、高崎市立倉渕中学校生徒による器楽演奏が行われた。倉渕中学校は、「一人一楽器」をモットーに生徒全員が吹奏楽に取り組んでいる。この日、演奏していただいた曲は、福田洋介氏作曲の倉渕中学校オリジナル曲「小栗のまなざしー小栗上野介公に捧ぐー」であった。生徒の一生懸命な演奏は、会場から多くの拍手をいただき、大変好評であった。



〈3〉 分散会報告

第1分散会

家庭や地域と連携して、確かな学びを創る特色ある 教育計画の創造と推進を図る

沼田市立多那中学校長 中島 誓子

1 研究発表① <<全国ブロック>>

- (1) 発表校 広島県庄原市立比和小学校（児童数49名 6学級）
- (2) 研究主題 主体的な学び合いによる授業づくり ～国語科を通して～
- (3) 研究の概要
 - ① 学習スタイルの確立
 - ・ 学習の流れの中に「話し合い」の設定
 - ・ 話し合いの視点を「広げる」「まとめる」「深める」の3点に絞る
 - ② 国語科説明的文章を中心とした授業改善
 - ・ 単元ゴールの明確化や学習形態の工夫、付けたい力を明確にした話し合い活動の設定
 - ・ キーワードやキーセンテンスに着目した読む力の育成
 - ③ 中学校の生徒が作成した話し合いルールを6年生が小学校版に作り変えて活用
- (4) 所感

小中連携による、連続性・系統性・一貫性のある主体的な学び合いの授業を行うことで、確かな学力を身に付けている。小中が連携して「話し合い」を核とした授業改善を行うことにより、一貫した児童・生徒主体の授業がなされている。話し合いの視点を3点に絞って取り組んでいるが、目的を明確にした話し合いを設定する手立てとして参考にしたい。

2 研究発表② <<関東・甲信越ブロック>>

- (1) 発表校 長野県長野市立中条小学校（児童数67名 7学級）
- (2) 研究主題 相手や目的に応じて、わかりやすくすすんで表現する力を育成するための指導のあり方 ～書く活動を中心に～
- (3) 研究の概要
 - ① 学力向上プロジェクトの取組
 - ・ 小中授業交流・授業研究会及び研修
 - ・ 言語活動の充実における国語科の実践
 - ・ 「学習のルール」「家庭学習の手引き」の作成と活用
 - ② 健やかな心と体プロジェクトの取組
 - ・ 「決めた時刻に起床・就寝」「ノーメディアデー」等による生活習慣作り
 - ③ 地域交流プロジェクトの取組
 - ・ 小中の生活科、総合的な学習の時間（なかじょう科）における、地域の自然、人、伝統文化等を題材とした学習活動
- (4) 所感

小中が連携して、授業参観・情報交換を行うことで、学力向上を目指している。国語科の「書くこと」を中心に言語活動を充実させ、表現力を高めている。児童に付ける力の決めだしや単元の構成の仕方など、教員の指導力を向上させている点を参考としたい。また、「学力向上のために生活習慣形成は欠かせない」は参考になる理念である。

第2分散会

ふるさとで学び、新しい時代を拓く、 開かれた学校・学級経営の創造と推進を図る

渋川市立南雲小学校長 狩野 英市

1 研究発表① <<全国ブロック>>

- (1) 発表校 石川県河北郡津幡町立笠野小学校（児童数34名 4学級）
- (2) 研究主題 ふるさとのよさを生かし、たくましく生きぬく力をもつ心豊かな児童の育成
- (3) 研究の概要

① 体験学習と交流活動の充実

- ・ 笠野の森の自然や野鳥への興味を高める活動
- ・ 田植えや稲刈りなどの農業・栽培体験活動
- ・ 伝統文化（でんでこ太鼓演奏）の取組
- ・ 近隣の小規模校刈安小学校との交流
- ・ 幼・保・小の交流

② 自主的な児童会活動をとおして

- ・ ふるさとのよさを生かした仲良し遠足の実施
- ・ 児童会活動の充実
- ・ 地域の人に発信する学習発表会

(4) 所感

近隣の小規模校刈安小学校との交流や様々な体験的な活動をとおして、地域の自然の豊かさやふるさとのよさに気づかせることができることがわかった。伝統文化である「でんでこ太鼓」を演奏する活動を取り入れることにより、保護者や地域の方々から拍手喝采をしてもらい体験を味わうことができる。このような体験を重ねることにより、伝統を継承する児童の育成ができると感じた。

2 研究発表② <<関東・甲信越ブロック>>

- (1) 発表校 新潟県長岡市立小国中学校（生徒数120名 5学級）
- (2) 研究主題 小国の将来を担う人材の育成
～自己有用感を育てる総合的な学習の時間での取組～

(3) 研究の概要

○下記の組織を作り、「地域貢献活動」をとおして、生徒が地域のよさを知り、地域のためになるよう自主的に活動することにより自己有用感をもたせ、地域やふるさとに愛着をもつようになる。

- 「運営本部」 全体の運営、各部の連絡や調整等
- 「営業部」 仕事の依頼や依頼先での活動の様子の確認等
- 「企画部」 自分たちにできる地域貢献活動の企画・実践
- 「活動部」 依頼を受けた仕事の実施
- 「技術部」 専門技術を必要とする活動の開拓

(4) 所感

中学生になると、生徒は部活動等で多忙になり、地域の行事に参加することが少なくなり、ふるさとのよさを感じる機会が少なくなる傾向がある。これを解決するための具体的な方策として、「おぐにカンパニー」による地域貢献活動事例はたいへん有効だと感じた。特に、総合的な学習の時間に位置づけ、生徒の活動時間を保障し、生徒一人一人が自主的に行動できるようにしたことがたいへん参考になった。

第3分散会

地域に根ざし、家庭や地域と連携して豊かな心をはぐくむ 教育活動の創造と推進を図る

中之条町立六合小学校長 富沢 正

1 研究発表① 《全国ブロック》

(1) 発表者 奈良県吉野郡十津川村立西川第二小学校 教諭 稲田 学 (児童数5名 2学級)

(2) 研究主題 一人一人が「わかった」「できた」を実感できる授業をめざして
～自分に自信をもち、生き生きと活動する子どもを育てる教育活動の推進～

(3) 研究の概要

① 児童が「わかった」「できた」を実感できる授業の工夫

- 到達カルテや基礎学習を通して、基礎的事項を定着させる。
- 研究授業や授業カルテを通して、これまでの研究成果を定着させる。

② 児童が自信をもって活動できる力の育成

- キャリア教育年間計画をもとにして、取組の成果を検証する。
- 日常的及び行事的な取組を通して、子どもたちに自信をもたせる。

(4) 所感

児童一人一人に「わかった」「できた」を実感させる授業の取組では、授業カルテの実践が興味深かった。授業を見通す・振り返る活動を教師自身が自覚し取り組むことで、児童も学習に対して、見通す・振り返ることになり、学習意欲の向上につながっている。また、在籍数が少ない中、地域の方を「PTA準会員」として登録し、様々な行事等に参加を促し、地域全体で子どもを育てようとする仕組みを確立していることに、感心した。参考にしたい事例である。

2 研究発表② 《関東・甲信越ブロック》

(1) 発表者 山梨県北都留郡小菅村立小菅中学校 教諭 萩原 義晃 (児童数15名 3学級)

(2) 研究主題 自分を表現できる生徒の育成
～学校教育全体での自己指導能力の育成を通して～

(3) 研究の概要

学校教育全体で3つの視点を意識して実践する…(ア)「他者の幸せを考える＝共感的人間関係の育成」

(イ)「達成感を与える＝自己存在感を与える」 (ウ)「理由付けをして選ばせる＝自己決定の場を与える」

① 多種多様な「表現活動」の場の確保

- 研究部会(教科・学年・領域別)で設定し、計画的に実施
・実施する上でキャリア教育を意識し「食育」「伝統」「地域を知り、貢献する」の3観点で

② 「わかる授業」の実践

- 3つの視点を意識した一人一実践
・地域教材の活用(小学校教育との連携)
- 少人数指導の見直し
・生徒自身の「疑問」からの出発

(4) 所感

地域との連携、地域教材の活用はへき地学校の大きな教育課題である。今までの連携や教材の活用を見直し、系統性や目的意識のある主体的な取組になるよう再吟味した実践は、これからの家庭や地域連携の参考になる取組であった。小規模校の特色・よさを生かし、地域との連携を図りながら豊かな心をはぐくみ、子どもたちの資質や能力を高めていきたい。

第4分散会

児童生徒のわかる喜びや個性の伸張を重視した指導計画の改善・充実を図る

東吾妻町立岩島中学校長 高山 明彦

1 研究発表① <<全国ブロック>>

- (1) 発表校 岩手県盛岡市立城内小学校（児童数 18名 3学級）
- (2) 研究主題 「児童のわかる喜びや個性の伸張を重視した指導計画の改善・充実を図る」
- (3) 研究の概要
 - ① 教科関連を意識した生活科・総合的な学習の時間の指導計画の見直し
 - ② 体験を基にした学びのサイクルの定着
 - ③ 言語活動の充実
 - ④ 個人シートの作成（個人ファイルを用意し、活動の記録を残していく。）
- (4) 所感

生活科・総合的な学習の時間の単元と教科との関連を意識した横断的な学習を実践することにより、基礎・基本の定着が図られ、学習の深まりが見られたことや、少人数だからできる詳細な『個人シート』の作成により、学年の個々の活動が途切れることなく児童の学習の現状把握ができ、適切なアドバイスができ指導の継続性が保たれることなど、とても参考になった。

2 研究発表② <<関東・甲信越ブロック>>

- (1) 発表校 東京都新島村立式根島中学校（児童数 11名 3学級）
- (2) 研究主題 「少人数・小規模校における意欲的に学ぶ生徒の育成」
～式根島の教育環境を生かした施設分離型小中連携教育の充実～
- (3) 研究の概要
 - ① 少人数を生かした個に応じた学習指導
 - ・一人一人が「わかる」や「できた」を実感する授業
 - ・教科面談と教科メッセージ
 - ② 小中の継続を意識した学習指導・生活指導
 - ・小中での教科、領域の連携活動
 - ・教育課程・校内組織の工夫
 - ③ 地域の一貫校としての連携
 - ・一人一人が「わかる」や「できた」を実感する授業
 - ・振り返りシートの活用
 - ・基礎学習の取組
 - ④ 小中の継続を意識した学習指導・生活指導
 - ・兼務発令を受けての連携授業、協力授業、合同授業
 - ・小学校6年生対象の体験入学
 - ⑤ 地域の一貫校としての連携
 - ・保育園・小学校・中学校を地域の一貫校として、地区音楽会、学芸会などの合同行事の取組や中学校教員による保育園への出前授業の実践を行っている。
 - ・保小中合同行事
 - ・保育園との連携
 - ・児童生徒の交流活動
- (4) 所感

地域の特色を活かした活動が展開されており、とても参考になった。特に、小中連携は中1ギャップを解消するという面でとても有効であると感じた。中学校の専門性を活かした小学校での授業は、児童に質の高い授業を提供する機会となったり、日頃から校種の違う教員が連携することでそれぞれの学習内容がどのように発展していくのかを教員自身が研修することにもなったり、中学校入学前に生徒理解を深めることができたりして、とてもすばらしい取組であると思う。

第5分散会

学習意欲の向上や個に応じたきめ細かな指導を重視した指導方法の改善・充実を図る

安中市立細野小学校長 本多 利幸

1 研究発表① 《全国ブロック》

- (1) 研究主題 表現することを楽しみ、共に高め合う児童の育成
～地域・仲間と関わりながら表現力を育てる実践活動を通して～
- (2) 発表者 長崎県南島原市立布津小学校第一分校 谷口 美佐子
- (3) 発表の要旨
 - ① 主題設定の理由
引っ込み思案であったり、みんなの前で話すことに抵抗感があったりして、自分の考えを発表することが苦手という実態から、地域や仲間と関わり合う機会を通して、共に楽しみ共に高め合いながら児童の表現力を伸ばしていきたいと考え、本主題を設定した。
 - ② 研究の実際
 - 大勢の前で発表し自信を付けさせる取組
 - 話す内容を思考する力を育成する取組
 - 友達の発表の良さに気づき、共に高め合う取組
 - 表現の仕方を工夫する取組
 - ③ 研究の成果と課題（◇成果 ◆課題）
 - ◇大勢の前でも堂々と話ができるようになった。
 - ◇一生懸命考えて進んで発言できるようになった。
 - ◆自分の思いや考えを発言できる力が出せるような場の工夫。
 - ◆一つの課題に対して話し合う力を育成する実践方法の工夫。 等

2 研究発表② 《関東・甲信越ブロック》

- (1) 研究主題 学習意欲の向上と基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る指導の在り方
～より効果的な個に応じたきめ細かな指導を通して～
- (2) 発表者 茨城県かすみがうら市立上佐谷小学校 菊池 良平
- (3) 発表の要旨
 - ① 主題設定の理由
自主学習や家での読書等、粘り強い取組ができず、個人差も大きいため、きめ細かな指導を意識して取り組むことで、学習意欲の向上と基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りたいと考え、本主題を設定した。
 - ② 研究の実際
 - 学習の目的意識を明確にし、学習の見通しをもたせる工夫
 - 個別指導や繰り返し指導の充実
 - 地域人材・環境活用による体験活動の充実
 - ③ 研究の成果と課題（◇成果 ◆課題）
 - ◇学級の支援的風土がアップし、98%が授業が楽しいと回答している。
 - ◇単元を貫く言語活動の充実で、授業者も目的意識が高まっている。
 - ◆大きな集団の中でも生かされる人間関係形成能力の育成。 等

3 指導・講評 茨城県教育委員会指導主事 川中 俊治

- 仲間同士の場や公の場を意識した話す場を設定し、聞かせる対象を仲間から地域に広げている。
- 人間関係が馴れ合いや閉鎖的になりがちであるが、場を設定し、関わりの密接さを生かして、一人ひとりの発達や個性に応じた支援により多様な教育活動が可能となっている。
- 授業のユニバーサルデザイン化により、全児童の学びを保障している。
- 地域に生きる先輩に触れる機会をもつことで、自分も地域の一員として地域への自信と誇りをもっている。

第6分散会

課題意識をもって自ら学び、仲間と共に高め合う 学習過程の改善・充実を図る

神流町立中里中学校長 飯野 聡

1 研究発表① 《全国ブロック》

- (1) 研究主題 確かな学力を身に付ける子どもの育成
～少人数の特性を生かした算数科の教育実践を通して～
- (2) 発表者 北海道白老町立社台小学校 教諭 栗田 悠
- (3) 発表要旨

① 主題設定の理由

児童が学ぶ楽しさを味わいながら、意欲的に学習に取り組む姿勢を育てることを大切にし、成就感のある課題解決的な学習を重視した指導方法の改善・充実に努めたい。そのため、「自ら学び自ら考える力の育成」と「基礎的・基本的な内容の確実な定着」という2つの目標の実現を図ることにより、「生きる力」の一つの柱である「確かな学力」を育成することができると捉え、この研究主題を設定した。

② 研究の実際

○指導方法の工夫…①ノート指導の工夫 ②視覚的情報提示の工夫 ③話し合い活動の充実

○学力定着の工夫…①知能・学力の実態把握 ②家庭学習の改善 ③補充・熟度別指導の充実

③ 研究の成果と課題（◇成果・◆課題）

◇ノート指導で充実した一人学習が進められた。学力分析による個に応じた指導の充実。

◆児童の応用力を高めるための授業改善。上位児童の学力向上のための習熟度別指導の充実。

2 研究発表② 《関東・甲信越ブロック》

- (1) 研究主題 できる・分かる・楽しい授業の創造
～小規模校の特性を生かした学習指導～
- (2) 発表者 栃木県矢板市立乙畑小学校 教諭 日下部 倫弘
- (3) 発表要旨

① 主題設定の理由

児童一人一人を尊重し小規模校のよさを生かした「居がい感」のある学校づくりを目指し、平成22年度から「できる・分かる・楽しい授業の創造」をテーマに掲げ研究を進めてきた。今年度は、「小規模校の特性を生かした学習指導」を見据え、授業を核として少人数や複式学級における学習指導の工夫・改善に努め、「主体的に考え、判断し表現する力」を育成し、子ども達一人一人の「確かな学力」を身に付けることを目指し主題を設定した。

② 研究の実際

○複式・少人数学級での授業実践…①指導計画の工夫 ②学習環境づくり ③交流の場の設定

○小規模校の特性を生かした活動…①生活・総合を活用した学校プラン ②他校との交流活動

③ 研究の成果と課題（◇成果・◆課題）

◇複式・少人数学習指導の特性に応じた柔軟な学習ができ、自主的・主体的な活動へ進化した。

◆人間関係が固定・限定し交流にも限界が…。意図的・計画的なコミュニケーション能力の育成。

3 研究協議

- (1) 質疑応答（主な内容）
 - 話し合い活動での教師の関わり方、書く時間の確保、リーダー学習とガイド学習
 - 小規模校同士の交流、学習センターでの学習、複式指導の中でのTT
- (2) 意見交流（主な内容）
 - リーダー学習とガイド学習の進め方、指導の仕方について

4 指導・講評（栃木県教育委員会副主幹 俵藤秀之）

○わたりの工夫、話し合いの工夫は、子どもたちが生涯にわたって学ぶ基礎を図っている。

○学習センターを校内に作ってしまう先生方のエネルギーがすばらしい。

○他校との交流は、大規模校との交流はよく聞くが、小規模校同士で行うことに意義がある。

○ねらいをもって授業をすることが大切である。

○書くことは効果のある活動である。そのことによって筋道を立てて考えることができる。

〈4〉 分科会報告

A分科会（高崎市立宮沢小学校）

自らの考えを言葉を用いて分かりやすく 伝え合うことができる児童の育成

～各教科等における思考力を伸ばす言語活動の工夫に視点を当てて～

1 公開授業

(1) 第1校時

学 年	教科等・単元名等	授業者	場所
第2・3学年 (複式)	図画工作・ 題材名「ワクワドキドキゆめの町」	上原美沙紀	音楽室
第6学年	理科・単元名「大地のつくりと変化」	堤 陽一	理科室

第2・3学年図画工作は、同じ題材で学年間の交流を取り入れた授業である。本時の言語活動は、自分の作品のおすすめポイントを発表する活動と、友達作品を見て「いいねカード」に書き表す活動である。学年ごとに鑑賞の観点を示し、児童が複数の視点から作品を見られるようにした。

授業では、「いいねカード」を書きながら児童同士で作品について感じたことを話す様子が見られた。また、振り返りの場面での発言等で、自分たちでは気付かなかったよさを知ることができて楽しかったという感想も聞かれた。

第5学年理科は、地層の構成物のサンプルからそれが水か火山か、どちらのはたらきによってできたものなのかを推論する授業である。少人数のよさを生かし、一人一人が観察し記録する「一人一実験」の場としての観察テーブルと、伝え合う言語活動の場としての意見交換テーブルを別に作った。

授業では、自ら観察・記録したことをもとに、考えをみんなに分かりやすく伝えようとする姿が見られた。今後、他の児童の発表に対して、質問したり自分の考えを発表したりするようにさせていきたい。

(2) 第2校時

学 年	教科等・単元名等	授業者	場所
全学年	児童会活動(縦割班活動)・ 題材名「ファミリー探検を成功させよう」	金井正徳、折橋茉紗代、 上原美沙紀、阿部均、松本厚子、 堤陽一、河野武、肥留川はるみ	体育館

導入に小グループで提案をさせることにより、児童全員が話し合いにかかわれるようにした。また、賛成や反対意見の発言等、話し合いの流れを明確にし、どの学年の児童にも分かるようにした。さらに、学年ごとに発表時に取り組んでほしいことを示すことにより話し合いが深まるようにした。

成果としては、話し合いの結果、多くの児童の意見を反映し集団決定できたことである。また、話し合い活動における各役割については、司会者は話し合いの流れをつかみ異年齢集団においてもフロアの様子を見ながらスムーズに進行ができるようになってきた。記録者は、司会をサポートしながら分かりやすく板書ができるようになってきた。フロアの児童は、上学年児童に下学年児童の発言をサポートしようとする意識が高まり、どの学年の児童も話し合い活動に意欲的に参加できるようになってきた。



〈児童の指揮による全校合唱〉

2 研究発表

(1) 研究協議の中で出された意見等

[質問] 第1校時の複式学級での図工では、2・3年生において同一教材を取り扱っていた。学習指導要領でのまとまりから考えると扱いにくいように思われるが、どのようにしているのか。

[質問] 私の県では、複式学級は1・2年、3・4年、5・6年の組み合わせで行われているが、2・3年の組み合わせの複式学級では、職員の配置やカリキュラムはどのようにしているのか。

[回答] 群馬県では複式学級解消のための非常勤講師が配置されているので、ほとんどの授業は単式で行っている。また、本校は教科担任制を導入していて、社会科は教務主任が担当している。普段の図工授業は、わたり方式でそれぞれの学年の題材で学習を行っている。学習を通して

複式学級としてのまとまりを作りたいと思っているので一緒に活動する時間を大切にしている。

【質問】 宮沢小ではふるさとに誇りをもてる児童を育てるということについてどう考えているか。

【回答】 本校児童にとっての「ふるさと」とは、①地域の豊かな自然環境、②児童を見守り育てている保護者や地域住民等の人的な環境、③児童自身の母校である宮沢小の学校環境であると考えます。①フォレストリースクールの体験的な学習を通して、地域の自然の豊かさやよさについての見方を深める。②保護者や地域住民が学校に協力して熱心に働いている姿を見て、保護者等に対して感謝や尊敬の気持ちを持ち、ふるさとに住む人々への誇りをもつ。③保護者の多くが本校卒業生であるという実態をふまえて、校内に展示してある卒業生の卒業制作を見たりして学校の歴史と伝統を学び、学校を誇りに思う心情が深まっていくものと思われる。

【意見】 「伝え合う力を伸ばす指導の工夫」という観点で児童会活動の授業を参観させてもらった。司会、記録、フロアー児童の身につけさせたい力を明確にし、徹底した指導がなされていた。その中で、ある班の発表では、児童が友達の発言を聞き逃している部分があった。その児童は授業の最後までそのことが分かっていなかったように思う。伝え合う力をより確かな力として定着させるには、まず、「聞く力」が大切であると思う。特に低学年では「聞く力」の必要性を感じる。

(2) 成果

- 相手の考えを利用して話す力を身に付けさせることができた。
- 相手の考えのよさや自分の考えとの違いに気を付けて聞く力を身に付けさせることができた。
- 自分の考えを積極的に述べるとともに、他者から学ぼうとする態度を養うことができた。
- 下学年児童の規範意識や判断力を高めることができた。また、上学年児童の自覚が高まり、よりよい行いを率先して遂行する行動力を育てることができた。

(3) 課題

- 児童の言語活動がより活発になり、学び合いがより深まる効果的な授業形態や指導の手だてを工夫する。
- 地域や学校の特色を生かした本校独自の取組を今後も継続するとともに、教育課程を工夫し、児童が一層主体的に取り組むことができるよう改善・充実を図る。

(4) 指導・講評 指導助言者：群馬県教育委員会西部教育事務所 指導主事 池田卓巳先生

○気心が知れている仲間ゆえ、「分かるはず」という思いで詳しく伝えなかつたことにより負の作用を生じることがある、ということから課題を明確化し、全教職員が解決に向かって一丸となって取り組んだことはすばらしいことである。また、このことを解決することが、群馬県のスローガンを達成し、ふるさとを愛し、社会に通用する子どもを育てることにつながるものである。



〈池田指導主事による指導助言〉

- 基礎学力の定着を図る指導の工夫では、「学力向上関連表」、話す力、聞く力を伸ばす指導の工夫として目指す児童像の明確化、伝え合う力を伸ばす指導の工夫として「言語活動で児童に身に付けさせたい力の評価規準」を作成し、全職員で共通理解のもと指導を行ってきた。評価規準を用いることによって、子どもたち一人一人の変容がよく見えてくるものである。
- 話し合い活動の指導の工夫では、学校全体で取り組んでいることがよかった。教職員全員が共通のイメージをもって進められていた。継続的な指導によって、特に記録児童の技能がたいへん向上していることに驚いた。研究紀要は話し合い活動についてたいへん詳しく書かれているので、参考にさせていただきたい。
- 話し合い活動の授業における児童の意見が硬かった。児童一人一人の意見は完成された形でなくても、伝え合うことでみんなで作り上げていけるようにしてほしい。
- 今後は、「伝え合い」を大切にするために、児童が言葉を用いて考え、決めたことを実行し、「楽しかった」という実感を味わえる成功体験を積ませるよう指導の工夫が望まれる。

B分科会（上野村立上野中学校）

主体的に学ぶことのできる生徒の育成

～学び合い活動の工夫を通して～

1 公開授業

(1) 第1校時

学年	教科・単元名	授業者	場所
1年	社会 「世界の諸地域」～北アメリカ州～ 「アメリカの農業」	橋本 翔	1年教室
2年	国語 「論理をとらえる」 「モアイは語るー地球の未来ー」	荒木 崇史	2年教室

(2) 第2校時

学年	教科・単元名	授業者	場所
2年	数学 「平行と合同」 「平行線と角」	茂木 宏隆	2年教室
3年	英語 「My Project 8」 「ホストファミリーに感謝を伝えよう」	坂本 哲也	3年教室

2 研究発表

(1) 研究協議の中で出された意見等

Q；支援表の作成頻度はどのくらいか。

A；頻度の決まりはないが、一人1研究授業の時は必ず作成。ふだんの時は、紙ベースにしないこともあるが、補充的・発展的な支援を考えて行っている。

Q；どの授業も意欲的にICT機器を利用しているが、1年生の場合、2つの班なら使う必要がなかったのではないか。人間（教師）がメディアになってもよかったのではないか。

A；ICT機器は、生徒の興味関心や意欲を高めたりするのに使っている。具体的には、めあてや授業の流れを示したり、授業の振り返りや体育科で自分の動きを客観的に見るために動画などを使ったりしている。ご指摘のように、ICT機器が必要かどうか、吟味して使用することが大切だと思う。貴重なご意見ありがとうございました。

*感想

・ふせんを使った班別学習、それをまとめ上げていく学習過程が見事。少人数ならではの醍醐味を味わうことができました。

・一人一人の生徒が自分の考えを発表しやすい学習環境、人間関係ができていたと思います。

(2) 成果

○各教科での「学び合いの活動の工夫」が、「生徒一人ひとりに活躍する場面」を作り出し、少しずつ生徒の中の自信と意欲が高まってきている。

○学習課題の精選、課題を提示するまでの導入部分の工夫、まとめに向かう展開部の工夫により、

生徒の学習への興味・関心・意欲が引き出されるとともに、授業を通して学習の深まりや有用性を実感する生徒の姿が多く見られるようになった。

- 生徒の実態に応じた3段階の支援を意識した「支援表」を作成したことで、低位の生徒を引き上げる補足的な支援はもちろん、上位群をさらに伸ばす発展的な支援を教師が意識して授業に臨むことができた。
- 学習の中や学校生活においても具体的なわかりやすい目標を定めることで、生徒たちの意欲喚起につながっている。

(3) 課題

- 「学び合い活動を通して、生徒の主体性がどこまで育まれたのか」を評価・検証していきたい。
- 「へき地小規模校ならではの活動のより具体的な実践」を推進していきたい。
- 授業を通して、学び合いを通じて身につけた知識や技能を活用した新たな課題に取り組みさせていきたい。
- 学び合い活動を通して、生徒の思考が深まるようにするためには、土台となる生徒の基礎的・基本的な学力・技能をきちんと身に付けさせていきたい。

(4) 指導・講評【指導助言者：西部教育事務所指導主事 岩崎 聡】

<学力向上について>

○小規模校のメリット

- ・支援表を作成することで、学力を保証する。
(一人ひとりの子どもの姿(ゴール)を思い描く)
→→ 定期的でなくても、作った経験からイメージすることができる
⇒⇒ 大規模校でも1/3ずつ絞って作成するなどの工夫で使える。

○小規模校のデメリット

- ・手を入れすぎてしまう。…発言を待つ。ヒントを与えて考えさせる。

<生徒指導について>

○藤岡北中学校(大規模校)との交流。

- ・委縮しない、違う環境でもしっかり発言できるなどの自主性を伸ばすだけでなく、お互いの学校のよさに気付くことのできる生徒を育てている。

○藤岡多野駅伝大会の参加、上中ソーランの取り組み

- ・努力することの大切さ、できた実感、そして自信につながる活動。「失敗したらかわいそう」でなく「失敗した悔しさからスタートする」考え方で、たくましさにつながる活動。
- ・様々な学校行事を学校全体で取り組んでいるからこそ、生徒の活発な発言、学び合いがあった。

<学び合う教師集団>

- ・小規模校のため、一人だけの教科担任だが、学び合う教師集団である。
全員で行う指導案検討、ワークショップ型の授業研究会。
→→教師自身が「学び合い」、「振り返り」を行っている。
- ・公開授業研究会、指導案検討など多野4校での取り組みが行われている。

C分科会（高山村立高山小学校）

自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成

～聴き合い つながり合う 授業づくりを通して～

1 公開授業

(1) 第1校時

学年	教科	単元名	授業者	会場
2	国語	音読げきをしよう(お手紙)	山口美枝子	2松教室
2	算数	新しい計算を考えよう【かけ算(1)】	岸 顕司	2竹教室
4	国語	説明のしかたについて考えよう (「アップとルーズで伝える」「仕事-フルトを作ろう」)	高橋 秋子	4松教室
4	算数	計算のきまり	佐藤訓弥子	4竹教室
特支 特支	生活単元	たかやま汁を作ろう(季節の学習)	小山 敬巳 剣持久美子	家庭科室

(2) 第2校時

学年	教科	単元名	授業者	会場
1	算数	ひきざん	干川のぞみ	1松教室
3	国語	物語の感想をまとめよう「ちいちゃんのかげおくり」	須藤 義昭	3松教室
4	音楽	せんりつのとくちょうを感じ取ろう	松本 真一	音楽室
5	算数	分数と小数	関 幹彦 山田 久次	5松教室 少人数教室
6	国語	作品の世界を深く味わおう「やまなし」	町田 敦子	6松教室
6	算数	比例をくわしく調べよう	竹本 雅彦	6竹教室

2 研究発表

(1) 研究協議の中で出された意見等

- Q. 授業におけるグループの机の配置やグループ編成の方法について違いが見られたが、学校全体として統一した基準はあるのか。
- A. 男女混合でコの字型に配置することを基準としているが、学年によって男女比や子ども達同士での意見交換の技量に差があるため、学級の実態に応じて弾力的に取り扱っている。
- Q. 指導案について「学び合いへの思い」とはどのような意図で設定したのか。
- A. 学び合いの授業を実践する観点から従来の「授業の視点」に代わるものとして設定した。学び合いの授業を充実させるための手立てを教師が考え、決意表明する形としている。
- Q. 指導案について「評価規準及び指導の計画概要」の形式はどのようにして設定したか。
- A. 群馬県教育委員会より例示されている指導案形式に基づいて設定。指導と評価の一体化を明確にするため簡潔な形となっている。
- Q. 指導案について「本時の展開」における評価はどのように設定しているか。
- A. 本時のねらいに対する評価については、最後ではなく本時の展開の中に◇で記述している。1時間の中での評価は1つか2つに絞り、評価の手立ても含めて記述している。
- Q. 研究紀要P.6「教師はテンションを上げない」の意図は。
- A. 学習院大学・佐藤学教授による教えを参考にした。教師自らが落ち着いて話を聞く姿勢をとることが、落ち着いた教室環境をつくる。
- Q. 何年か取り組んでみたことによる児童の実態から見た成果やよさは。
- A. 6年生は実践して3年目になるが、自分の意見を話すこと、人の意見を聞くことができるようになってきている。時間をかけて繰り返して指導を行うことが、成果につながる。
- Q. 算数を中心に参観したが、共有の課題→ジャンプの課題→振り返りという提案された授業デザインの中で、特にジャンプの課題の設定のポイントは。
- A. 児童の誰もが分からないレベルの課題であれば、みんなで解決に向けて話し合いを深めることができる。現状は、児童の実態から教科書の中の難しい問題をジャンプの課題としている。
- Q. ジャンプの課題で、児童の意見が広がった場合の振り返りはどのようなものになるか。
- A. 振り返りは学びをやりっ放しにせず、グループやクラス全体で話し合ったとしても最後は個の問題としてとらえさせることが大切。授業の終わりに十分理解できなかった自分に気づくことも大事なことと考える。

(2) 成果

- 初めて学び合いに取り組む1年生でも、ペア学習の中で互いに聴き合えるようになってきた。特に国語の音読などでは、相手を意識して読むことができるようになった。
- 2年生では、「べっちょり型」といわれる、隣同士がくっついた机の配置に慣れてきた。また、「分からない」と言えるようになってきたことが学ぶ楽しさにもつながってきた。
- 中学年以上でも、座席配置を工夫することで、互いに聴き合い伝え合うことを大事にする場面が増えたと感じられる。分からないことや間違ったことを恥じるのではなく、素直に「分からない」と言えるようになり、友だちから学ぼうとする態度が見られるようになった。
- 特別支援学級は異学年の児童で構成されるが、同じ題材で学習する授業では、互いのよさを認め合いながら学習できるようになってきた。

- ・自分なりの考えをもってグループや全体で話すことを意識させてきた結果、グループ学習の中で多様な考え方を取り入れようとする姿勢が見られるようになった。
- ・視聴覚教材を積極的に取り入れたことが、課題を把握しやすくなり、説明を視覚的にできたりするなど、児童自身が積極的に学ぶきっかけになっている。
- ・学び合う児童の姿として、「教え合い」との違いや「話し合い」との違いを理解できてきたので、授業中の活動を具体的にイメージできるようになった。
- ・一つの授業構想の中で、共有の課題やジャンプの課題を意識することで、その時間の学習課題を明確にして指導できるようになった。
- ・6年生では、学習以外の面からも「聴き合う関係づくり」に計画的に取り組んできたが、長いスパンで目標設定したことで、あせらず少しずつ取り組むことができた。
- ・疑問や不安を正直に出し合いながら全員体制で取り組むことができた。全員授業を公開し授業研究会をすることで、自分一人での悩みを全体の課題として学び合うことができた。職員全員が真剣に個人テーマと向き合い、協力しながら研修に取り組むことができた。

(3) 課題

- ・低学年では、まだまだ聴き方の姿勢が不十分である。学び合いにおける聴き方の指導に力を注ぐと共に、「聴ける子どもをつくるのは、聴ける教師の姿から」という基本の考えを大切に、児童のつぶやきを逃さず受け止めていく力を付けていく必要がある。
- ・できる児童とできない児童といった上下関係を生じさせないように、授業の中で、「分からない」ことをもっと生かせるような展開を工夫する必要がある。また、分かっているつもりでも実は分かっていないことに気付かせるような課題を学習過程の中に位置付けていく必要がある。
- ・ジャンプの課題設定に関して、「この課題で学び合いが成立するのだろうか」という不安が生じる。的確な児童の実態把握とその実態に基づいた教材研究や授業実践を重ね、ジャンプの課題設定についての研修を深めていく必要がある。
- ・学び合いを実践する場合は、教師の思いと児童の実態との差を感じる授業場面もあったので、常に児童の実態を把握して、教材研究を進めていく必要がある。
- ・個人テーマに沿った授業実践を重ね、情報を共有し、より質の高い学び合いを目指したい。

(4) 指導講評 【指導助言者：吾妻教育事務所 指導主事 市村武文】

児童同士、児童と教師とが温かい信頼関係を築き、安心して学習に臨んでいる様子が授業から感じられた。これは、高山小が、へき地校のよさを十分に生かし、指導を続けてきた成果である。自分の思いを伝えることに消極的であったり、反応が少なかったり、または指示待ちになってしまうといった課題については、高山小だけの課題ではなく、多くのへき地校で抱える課題であると考えられるが、本研究はそれらの課題に正面から取り組んでいる。本研究のねらいは、習得した知識・技能を活用した思考力、判断力、表現力の向上にあると言える。

○聴き合い、つながり合う授業づくりのための取組

聴き合う関係づくりに着目しているが、学び合いを進めるには、友達の考えをよく聞き、比較検討をしたり、練り合いをしたりしながら考えを深めていくことが大切。その土台となるのが“聴く”ことである。聴くことを中心に児童同士、教師と児童の関係づくりを進めている。クラス全員の顔が見渡せるコの字型の座席配置、ペア学習や4人が基本のグループ学習を積極的に取り入れ、交流する機会を増やした。わからないという言葉に耳を傾け、わかるまで説明しようとする温かい人間関係が見られた。教師がしゃべり過ぎず、言葉を精選して、いねいに話すよう心がけていた。その結果、全員の児童が安心して学べる教室環境が整ってきた。「つなぐ」言葉がけや「もどす」言葉がけに着目し、どんな言葉がけをしたらつなぐことができるのか、多様な考えを引き出せるのか、どんな言葉がけでもどすことにより思考が深まるのかについて取り組んだ。これらの成果として、高山小では聴き合い、つながり合う授業づくりが進み、学び合う児童の姿が見られるようになった。

○質の高い学びの実現を目指した授業のデザインと課題設定の改善

授業のねらいを明確にするとともに、共有の課題→ジャンプの課題→振り返りというシブシブな流れを徹底したことにより、教師も児童も見通しをもって授業に取り組めるようになった。自力では解決が難しいジャンプの課題の設定により、集団で学ぶよさや解決できたときの達成感を実感でき、学習意欲の向上や思考の深まりにつながった。学び合いが成立するための課題設定のレベルをどこに合わせるのかがポイントとなる。児童の実態に合わせて課題設定するとともに、実践を積み重ね今後さらに研究を深めて欲しい。授業のまとめでは、学び合いで解決してきたことをもう一度個にもどす振り返りの時間を設定した。群馬県でねらっている「ねらいと振り返りの充実」をしっかりと授業の中に位置づけている。

○同僚性をキーワードとした職員集団の形成

本日全学級で授業公開が行われたことから分かるように、全員で取り組む体制を大切に研究を進めてきた。また、個人テーマを設定し、授業公開・授業研究会を繰り返し行い研究に励んだことにより、研究テーマを追究した。月曜日の放課後だけでなく校時表の工夫により金曜日にも校内研修を設定するなどして時間を確保した。こうした組織的、継続的な取組を通して、児童がのびのび学習する姿や臆することなく自分の考えを伝え合い練り合う中で豊かに学び合う姿が見られた。

D分科会（東吾妻町立坂上小学校）

深く考え、よく学び合う児童の育成

～気付き考え共に学ぶ指導の工夫を通して～

1 公開授業

(1) 第1校時（8：50～9：35）

学年	教科等	単元名・題材名等	授業者	授業会場
1年	学級活動	てあらいじょうずになろう	T1本木圭子 T2梅澤艶子	1年教室
2年	国語	きみたちは「図書館たんていだん」	山本 忠克	2年教室・図書
4年	算数	共通部分に目をつけて	福島 晋	4年教室
5年	道徳	ものを大切に作る心	篠原 真理	5年教室

(2) 第2校時（9：45～10：30）

学年	教科等	単元名・題材名等	授業者	授業会場
3年	道徳	家族の一員として	T1八木橋智幸 T2丸山まり子	3年教室
5年	音楽	曲想を味わおう	唐澤 裕子	音楽室
6年	算数	比例と反比例	T1島村 博 T2茂木 愛子	6年教室

2 研究発表

(1) 研究協議の中で出された意見等

質問1 6学年算数の授業で、T2の役割が不明であった。普段からどのようなねらいで活用しているのか。

回答 児童数は11名だが、学力に大きな個人差があるため、主に個別指導に活用している。本時は学級を3つに分け班活動をさせ、班ごとに細やかなアドバイスが効果的にできた。特徴的な試みとしては、本校T2は坂中との兼務で、中学校でも数学を教えている。生徒の学習状況から小学校でのつまずきの原因を探り、分析しながら、中学校及び小学校での指導に生かす取組を行っている。

質問2 どの授業もめあてを示し、行われていた。振り返りやまとめを振り返りシート等を活用することでめあてに迫れたかどうかを確認することができるが、坂小はどうか。

回答 振り返りシート等を使うことは有効であると考えている。本時の指導案にもある。時間の都合で終末までいかなかった授業もあるが、普段から活用して授業を進めている。

質問3 児童は、少人数での話し合いを何のためにやっているのかという意識をどの程度もっているのか。

回答 常にめあてをもたせた話し合いをさせてきている。児童の発達段階に応じてめあてのもたせ方も異なる。めあてのもたせ方が曖昧だと目的意識の薄い話し合いになってしまうこともある。

質問4 話し合いの班編制について工夫、配慮していることはあるか。

回答 男女が入るよう、また互い違いに座るようにしている。必要に応じて班編制も変えている。

質問5 中学校統合により小学校同士の連携、交流が大切だと思う。どのような活動をしているのか。

回答 来年度の統合に向け、昨年度より町内5小学校は、夏季休業中に6学年児童を対象とし、県の施設

で一泊二日の交流学习を実施している。学校の枠を外した班編制をし、諸活動と宿泊体験を行っている。5校での情報交換も重要になるので、今後さらに充実させていきたい。また、統合により大きな中学校へ進学する児童にとって、自校の中だけでなく他の学校の児童の中にも、大きな声であいさつや返事をすることや、自信をもって発言する力も必要になるので今後も指導・支援していきたい。

(2) 成果

- ・板書等でめあてを示して授業を行ってきたことで、児童は自分が何のために何に向かって取り組もうとしているのかを意識するようになった。
- ・話し合い活動がどの単元のどの場面で行えるか、主要な話し合い活動を明記した国語・算数・音楽の年間指導計画を作成することができた。
- ・授業で意図的に少人数の話し合い活動を取り入れることにより、児童が徐々に話し合いに抵抗を示さなくなり、話し合う学習過程そのものを自然に受け入れるようになってきた。また、話し合いを通して相手の気持ちを押し量りながら、話したり聴いたりすることができるようになってきた。
- ・教師が学びを深める学習ステージを意識して公開授業を行い、指導方法や学習形態の工夫について、自分の取組と比較したり、良い点を取り入れたりするようになり、教師間の学び合いが促進された。

(3) 課題

- ・めあて～振り返り（まとめ）を常に実施していくとともに、児童の発達段階に応じた振り返り活動の充実を図る必要がある。
- ・話し合ったことを授業や日常生活で表現し、行動に移せる段階まで高めたい。話し合ったことが今後の学習や日常生活にどう関連していくのかを児童に具体的に示して、実践を促していかなければならない。

(4) 指導講評

へき地校がもつ、人間関係の固定化という課題がある。同時にそれは安心して学習に臨むことのできる信頼関係が構築されているということでもある。それゆえの課題ともいえる「短い言葉で話が通じてしまう」ことに、児童の未来を真剣に考えた上で設定された研究であった。複雑化していく社会においても、この地域で学び育んだことを生かして、たくましく生き抜いていけるようになってほしいという願いがそこにはある。本研究では、児童たちの未来に関わる課題に取り組んでいる。

「深く考え、よく学び合う児童の育成」の研究テーマの下、まず「よく学び合う児童」を育成するためには、4つの資質・能力「気付き」「考え」「話し合い」「行動する」を、発達段階に応じて計画的に育成することが大切であると捉え、そこから授業方法の工夫に取り組んだ。目指す児童像に迫る学びの環境をつくるということで、最初に、児童たちのよさとして「目標に向けて地道に努力ができる」実態に着目した。それゆえ「めあて」を明らかにした授業づくりに取り組んだ。本時のめあてを示し、何を学ぶか意識させ、児童に見通しをもたせることは、児童はもちろんのこと、教師側にとっても授業を構築していく上で大変重要な要素である。意見交流や話し合いの場面で、ここで一人一人の考えをしっかりとらせることを話し合いの手順として位置づけ、考える時間を確保していることがよい。研究協議でも出ていたが、何のために話し合いをするのかという目的意識をもたせることが大前提であり、今後研究していく余地はある。教師が実態を鑑み、話し合い活動の場面において、意見と意見を対比させたり、相違点を明らかにしたり、共通点をまとめたりすることが苦手であると分析し、実態に即した手立てを意図的に行っている。実態から目指す児童像への道のりを、つなぐべきところはつなぎ、任せるべきところは任せていた。この見極めが指導者には必要であり、目を離さずに手を離す場面と、見ていて助けが必要なときにヒントを出し、考えさせる場面とをバランス良く使い分けていくことが、課題を解決するためのスキルを覚えたり、自力で解決できたという達成感を児童に実感させたりする。終末では、「めあて」を意識させた振り返りを各授業において実践することが、児童たちの達成感につながり、各時間で学んだことを定着させる一助となる。この振り返りに現れる児童の言葉によって、自らの考えを深め、よく学び合う学習となっていたかどうかをくみ取り、児童たちの現時点での実態から、より目指す児童像へと迫る授業の構築につながっていくように、今回の取組をさらに充実したものに行けるとよい。

E分科会（孀恋村立東部小学校）

互いに認め合い、高め合える児童の育成

～地域を大切にしたい授業づくりの工夫を通して～



1 公開授業

(1) 第1校時

学年	教科・単元名	授業者	場所
2年2組	生活科「わたしの村 大すき」	山野 祥子	2年2組教室
3年1組	社会科「村の人々の仕事とくらし」 ～つまごい村のキャベツ作りのひみつをしらべよう～	青木 朋美	3階多目的ホール
6年1組	理科「大地のつくりと変化」	水出 英基	6年1組教室

(2) 第2校時

学年	教科・単元名	授業者	場所
1年1組	国語科「くらべて読もう じどう車くらべ」	中島 明美	1年1組教室
4年1組	社会科「郷土を開く」 ～日本一のキャベツ村へ発展するために～	黒岩佐登美	2階多目的ホール
5年1組	総合的な学習「孀恋村をPRしよう」	本間 達也	5年1組教室

2 研究発表

(1) 研究協議の中で出された意見等

○地域学習と学力向上が、どのようにリンクしているか。

・統合により、お互いの旧学区地域を理解し合えるように、地域学習に取り組んでいる。地域の学習の位置づけとしては、地域学習単独ではなく、学習過程を工夫する中で、年間計画に位置づけて取り組んでいる。

○4年生の授業から、自分自身の言葉でテーマについて表現できる児童は、どのくらいいるのか。

・児童は、キャベツに関して自分で調べたテーマに関しては理解できているが、他の児童が調べたことについては理解不十分な面も見られる。孀恋＝キャベツと頭では理解しているが、自分の言葉で発表できるほど自信はない。そこで、今回の学習で、自信をもって、地域の特産であるキャベツについて語れる児童を目指していきたい。

○発表の授業では、書かれていることを読んでいだけの児童が多く見られた。

・自分の意見を発表するのが苦手な児童が多く、そのための手段として、まず、まとめ用紙に記入、見ながらの発表という手段をとった。今後は、自信をもって自分の意見が発表できる児童を目指していきたい。

○統合前と統合後、授業におけるプラス面とマイナス面について

・統合前は、小集団の中、自分の考えを言い、自分たちが住んでいる地域に関しても理解していた。しかし、狭い範囲の中での意見の交流に過ぎなかった。統合後の大集団の中では、自分の考えを表現しづらくなった面もあるが、いろいろな考えの意見を聞くことができ、広がった考えをもつことができるようになった。

○統合による、子どもたちの変容と保護者の意識の変容について

・統合前や統合直後については、児童も保護者も大変な不安を抱えていた。児童は、統合前からの交流活動や統合後のお互いの地域を知り合う学習やお互いを知る活動など通し適応していった。統合に際しては、「心（気持ち）」を大切にしながら取り組んできた。2年目の今年度は、新しい学校（東部小）の子どもたちとして見てもらえるようになってきており、PTAも地域も学校に対して、とても協力的である。地域からの大きな期待を感じている。

○地域の特色がよくだされていた。授業では、地域素材を活用し、子どもたちにとって興味のもてるよう

な工夫がなされていた。

○統合に関わる協議内容がとても興味深く、もっと時間があれば話を聞きたいという充実した内容だった。

(2) 成果

○地域を大切にした授業づくり

- ・統合による児童の変化への対応ができた。
- ・児童の郷土への理解を深めることができた。
- ・お互いを尊重し合う気持ちが生まれた。

○学習過程を工夫した授業づくり

- ・自分の考えを発表しようとする児童が増えた。
- ・児童の成長に系統性をもたせることができた。



(3) 課題

○地域を大切にした授業づくり

- ・体系的かつ計画的な地域の教材や人材の活用が必要である。
- ・教材の開発や発掘が必要である。

○学習過程を工夫した授業づくり

- ・児童の意欲を持続させるための工夫が必要である。
- ・各過程における手立ての工夫と実践方法の共有化を進める。
- ・6年間を見通した年間指導計画の見直しを進める。



(4) 指導・講評

東部小の研究は、全国へき地教育主題を受けて「へき地性」と「授業改善」の2本の柱で取り組んできた。小規模・複式学級ということに関しては、200名を超える児童数など、他の学校と何ら変わらない感じを受ける。しかし、6つのルートスクールバスとJRを利用しなければできない登下校や地域が離れているため友だちと一緒に下校したり遊んだりできないなどを考えるとへき地性があるといえる。統合は小規模校の先にあるもの、へき地教育の未来を写していると感じた。孺恋村は、学校と地域が一体となった強い関係で教育活動が展開されている。



まずは、児童の意識調査を行い、実態把握をするとともに教職員が地域を知り、地域の特徴を取り入れた無理のない教育課程に位置づけられる教材を洗い出している。教科のねらいをしっかりとち、+αの価値をもった教材を用意することで、地域を大切に子どもたちに伝えていく姿勢は、地域に理解されていくことになる。

授業改善については、合い言葉、「どこにいても質の高い教育を受けられる」ということを意識してきた。東部小では、学習過程を「つかむ」「たてる」「たしかめる」「まとめる」を意識し指導することで、研究を全職員で組織的に進めることに役立った。「つかむ」「たてる」の過程では、解決の手立てを見通し、児童が意欲的に学習に取り組めるように進められた。「たしかめる」「まとめる」の過程では、たしかめるためのまとまった時間配分に留意することやまとめる段階での学習のふりかえりをお願いした。本日の児童は、緊張していたが、友だちの意見を聞き再構築する場面では、日頃の指導の成果が発揮できたように思う。授業のねらいを吟味し、児童の多様な考えと合致させられるような展開にもっていけることが、授業改善へとつながっていく。本日の意見を参考にするとともに、統合後の児童と保護者の変容を見据えながら、さらに研究を進め充実させていってほしい。

F分科会（長野原町立応桑小学校）

ふるさとのよさを生かし自ら学ぶ心豊かな児童の育成

～くわっ子タイムの活動を生かして～

1 公開授業

(1) 第1校時

学年	教科・単元名（くわっ子タイムとの関連）	授業者	場所
1	学級活動・すききらいをなくそう （学校農園で収穫した野菜の実物を使って）	根岸菜穂美 加藤 恒世	1年教室
3	社会・野菜づくり農家の仕事 （タブレットで撮った地域の農家の方へのインタビュー映像を活用して）	千川 昭子	3年教室
5	算数・比べ方を考えよう（1） （タブレットで撮った映像やそこで収穫した学校農園のジャガイモのとれ高を生かして）	宮崎 伸介	5年教室



第1学年



第3学年



第5学年

(2) 第2校時

学年	教科・単元名（くわっ子タイムとの関連）	授業者	場所
2	生活・げんきにそだてくわたしたちのやさいばたけ> （学校農園で収穫したハロウィンかぼちゃを教材にして）	木暮みさ子	2年教室
4	道徳・オリンピックにかけたおもい （元オリンピックスケート選手をゲストティーチャーに迎えて）	小山 和久	4年教室
6	国語・「平和」についての考えをスピーチで伝えよう （地域の戦争体験者をゲストティーチャーに迎えて）	鳥塚 嘉紀	6年教室



第2学年



第4学年



第6学年

2 研究発表

(1) 研究協議の中で出された意見等

○本日6年生・4年生は地域の方々の参加をいただきました。6年生の国語では、戦争の体験者の方にお話していただき、子どもたちが真剣に聞いていました。4年生の道徳では、オリンピック選手だった宮崎さんが登場した瞬間、教室の空気が変わりました。二つの授業ともすごい重みのある授業だと思いました。

○応桑小学校が「くわっ子タイム」を生かしながら、野菜作りであるとか畑の活動を中心に熱心に取り組んでいる様子がうかがえました。私の学校も高原野菜作りが非常に盛んです。学校に畑もありますし、学校で南商店というお店をやっていますが、子どもの意欲はこんなにも高くはありません。うらやましいなと感じました。

○6年生の授業で、ゲストティーチャーを招いてグループ学習をしていましたが、グループの聞き取りの中で皆さん熱心に聞いている姿を感じました。とりわけ一人の女子児童が身を乗り出して一言も聞き逃さないぞという表情でゲストティーチャーの話を聞いていました。その姿を見たときに本校の研究の「くわっ子タイム」という活動が子どもの自ら学ぶということに非常に有効に作用していると感じました。

○研修主任から学習過程を大事にしているという話がありましたが、特に5年生の算数の授業ではそういうところがきちっと意識されていて研究と先生方の実践とうまく結びつけてやっているという感じがしました。もう少しと思ったところは、子どもたちがねらいをもつところ、見通しをもつところ、まとめるところを全部先生が一人でやってしまっている感がありました。こういったところを子どもたちに任せていけばさらに自ら学ぶ力が付くと思います。

(2) 成果

○「くわっ子タイム」の活動を各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動と関連させた年間計画を作成し、授業でその体験的な活動を取り入れたことは、実感を伴った理解につながり、また、自ら何ができるかを考え行動しようとする意欲につながった。

○ゲストティーチャーとして招いた地域の方から授業で話を聞く活動は、地域の方々の願いを直接知ることになり、児童は、自分自身が地域に関わっていることを実感することができた。

○「くわっ子タイム」の活動を生かした教材は、意識すれば多方面から発掘することが可能であり、身近な体験を授業で取り上げたことで、児童の興味・関心が高まった。

○少人数を生かした個別指導や授業形態を工夫したことで、一人一人に応じた指導が可能になり、その結果、主体的に学習に取り組む意欲が高まった。

(3) 課題

○「くわっ子タイム」の活動と教科等の関連年間計画を作成してきたが、単元や一単位時間のねらい達成のために、よりふさわしい教材の検討を重ねていく必要がある。

○自ら学ぶ意欲を培うために、教育機器を使ったり、交流学習の形態や個別指導を工夫したりしてきた。さらに、一人一人が主体的に学ぶ姿勢を身に付けるためには、学び方を身に付ける必要がある。そのため、一層ねらいを明確にした授業を構想していく必要がある。

○今後は、ふるさとを愛する気持ちを育てたり、児童が自己の生き方についての考えを一層深めたりできるような「くわっ子タイム」の活動についての内容や指導計画を、さらに検討し工夫していく必要がある。

(4) 指導・講評

「くわっ子タイム」の活動を教育課程内に位置付けて学習活動を充実させ、ねらいに迫った。今後も学習計画を意識し、目指す児童を6年間で育ててほしい。授業づくりでは、学校農園で収穫した野菜を使ったり、ゲストティーチャーを招き学習活動を充実させたり、タブレットを用いて実際の映像を見せて新たな気付きを引き出したりするなどの工夫があった。ゲストティーチャーとの交流は、児童の思いを広げたり引き出したりし、今までの生き方を見直す機会となった。紀要に記載されていたように、今後も指導者は創造的態度、探究心をもって教材研究を深め、地域の教育力を学校教育に効果的に取り入れ、学習活動をより充実させていくことを期待したい。

G分科会（中之条町立六合中学校）

自らの考えを伝え、互いを認めて高め合える生徒の育成

～学び合える表現活動の充実を通して～

1 公開授業

(1) 第1校時

学年	教科・単元名	授業者	場所
第2学年	数学・平行と合同	小林 優介	2年教室
第3学年	社会・地方の政治と自治	橋本 智之	3年教室

(2) 第2校時

学年	教科・単元名	授業者	場所
全学年合同 第1分科会	総合的な学習の時間「ふるさと研究」【歴史・文化】 テーマ「六合の文化を未来につなぐには」	木暮 聡 橋本 智之	3年教室
全学年合同 第2分科会	総合的な学習の時間「ふるさと研究」【自然・環境】 テーマ「六合の自然を未来に残すには」	谷川 篤 武捨恵里佳	2年教室
全学年合同 第3分科会	総合的な学習の時間「ふるさと研究」【産業・観光】 テーマ「六合の未来をどうする？」	小林 優介 越澤 昂洋	1年教室

2 研究発表

(1) 研究協議の中で出された意見等

○総合的な学習の時間「ふるさと研究」は全校合同の縦割り編成で行っているが、学年による配当時数の違いをどのように調整しているのか。

→「ふるさと研究」以外に、1年は自然保護「シラネアオイを守ろう」、2年はキャリア教育「職場体験」、3年は地域文化「和太鼓」などの取組があり、そこで調整している。

○「ふるさと研究」の縦割り活動では、中学生の上下関係の中で、3年生はリーダーシップをとれるだろうが、1、2年生が活躍できるような工夫はどのように配慮しているのか。

→1～3年までたいへん仲がよい。1、2年生がうまく意見を言えなかったり失敗してしまったりしても、3年生が優しく受けとめる姿勢ができています。小学校での取組がうまく中学校でも生かされている。

○形だけの発表に終始することなく、学び合いを成功させるコツは何か。

→聞く側の姿勢を大切にしてきた。校長を先頭に全職員が「嫌なら嫌と自分の気持ちを言ってよい。本音はどうか？」ということを常に意識して伝えてきた。安心して自分の意見を言える雰囲気づくりが大切。

○「考える場面」をどのように作っているか、工夫点が知りたい。他の教科でも特徴的な活動や取組があれば教えて欲しい。

→本校では各教科において、課題に対してすぐにグループで考えさせるのではなく、まず個人で考える時間を保障し自分なりの意見や考えをもったうえでグループでの話し合いに取り組みさせている。数学など、自分一人では考えることができない生徒に対しては、一人に一枚ずつヒントになるカードを準備したり、付箋に自分の考えを貼っていくなどの思考の補助になる支援をしている。

○学校と地域の連携を進める上で、発達段階や実施時期を調整していく担当の苦勞を知りたい。
→小規模校であるからこそ地域との連携を大切にしている。アドバイザーの選任など、支所との連携を密にしている。合併前から小さな村だったので、役場職員も全校生徒の顔と名前を把握するなど、地域としても、学校への協力体制があり、支所が中心となって地域と学校のパイプ役になっていただいている。

(2) 成果

- 本時のめあてや流れを示したホワイトボードの活用により、生徒は授業の見通しがもてるようになり、主体的な取組が増えた。
- 話し合いによる学び合いを充実させたことにより、互いの多様な意見にふれる機会が増え、自分と違う意見を認めたり、他の意見を受け入れたりして、自らの考えに生かすことができるようになってきた。
- 六合の将来と自己の関わりを考えさせた結果、ふるさとの活性化や繁栄を願う気持ちが高まったり、将来六合を離れても地域貢献ができるふるさと納税などについても学んだりすることができた。

(3) 課題

- 個人で考えさせる際の生徒に対する個別の支援
- 自己の変容を実感できるような振り返りの場面の工夫
- ふるさと研究を通して自己の生き方を考えさせる

(4) 指導講評（群馬県教育委員会事務局 吾妻教育事務所 学校教育係 指導主事 小林克典）

- ・ 六合中学校には、温かな人間関係に支えられ、安心して学習に取り組める環境があった。これは、へき地校（小規模校）なら当たり前には培えるというものではない。日常的に意識的に指導してきた成果である。へき地校のデメリットとされる人間関係の固定化は、返せば安心して取り組める環境といえる。どの学校でも言語活動は中心的課題であるが、取得した知識を活用して判断できるようにすることが大切。へき地校としては「目を離さず手を離して」が大切。一人一人の自己決定の場をしっかりと与える日々の授業づくりが重要である。
- ・ 研究内容については、個に着目し、どの生徒も授業に集中できるような視覚的工夫など、授業のユニバーサルデザイン化が、すべての教師に共通理解され実行されている。ホワイトボードの活用は、学習者にとっても指導者にとっても授業にたいへん役立っていた。意見交流や話し合いの場面では、この考えをしっかりとめさせる時間を確保していた。これにより、次のステップとなる認めて高め合える活動へと高められていくとともに、共有する場面でも、しっかりと話し合いをまとめていた。
- ・ 学習形態の工夫は、何でも少人数ではなく、学習のねらいを達成するための手段として使い分けることが大切である。本校では個で考えさせる時間を保障した後、ねらいに合った学習形態の工夫がされていた。
- ・ 伝え合いを充実するための工夫として、ホワイトボードの活用は有効であった。他の発表を聞き、本音を語り、受け入れるなど、認めて高め合えるための重要なツールとなっていた。さらに、話し合いをより充実させるためには、適切な視点をもたせることが重要である。社会科の授業では、社会をより良くするために、自分を見つめ社会に積極的に関わろうと努めていた。
- ・ 振り返り場面の工夫では、ワークシートを活用した振り返り等が有効である。自分の考えが深まったかどうかを視覚的に振り返ることができる。また、自己評価や教師の評価にも有効活用できる。
- ・ 近年、地域社会を考える上で「協働」という言葉がキーワードになっている。それぞれが共に地域づくりに参加するという意味であるが、「ふるさと研究」では、「歴史・文化」「自然・環境」「産業・観光」それぞれの分野で六合の未来を考えていく取組を行っていくことで、生徒が主体的にふるさとに関心を持ち、地域のよさを発見すると同時に、課題を見つけることができる。さらに、そこに自分がどう関わっていけばよいかを学ぶ学習になっている。地域交流の拠点として未来につながる学びは地域の希望となる。一人一人があきらめることなく、人と人とのつながりを大切に、地域づくりの主役になってほしい。

H分科会（昭和村立大河原小学校）

自分の思いや考えを表現し、高め合う児童の育成

～伝え合う活動の工夫を通して～

1 公開授業

(1) 第1校時

学年	教科・単元名	授業者	場所
1年	国語 「まめ」のそだつようすをよんで、 「あさがおぶっく」をつくろう	宇敷美智代	1年教室
4年	国語 「リーフレットを作って 世界の食文化を紹介しよう」	武井 弘美	4年教室

(2) 第2校時

学年	教科・単元名	授業者	場所
5年	総合 やさい王国昭和村 ～地域の野菜作りを知ろう～	阿部 政志	体育館
6年	総合 先人の思いを知り、未来へつなげよう ～赤城大地の開拓の歴史を探ろう～	原澤ちあき	体育館

2 研究発表

(1) 研究協議の中で出された意見等

Q；伝え合う活動においては話をする型や伝える型は意識させたり学習させたりしているのか。
また、4年の並行読書における位置づけはどうなっているのか。

A；学年における発達段階を考慮しながら、各教科ごとにそれぞれの単元等で意識させながら取り組んでいる。

A；今日の授業では単語を探したり理由づけで終わったりしたが、単元の学習の終末2時間に位置付けている。

Q；小規模校だからこその支援の方法があったら教えてほしい。

A；今担任している児童は8名。少人数だが個性豊かで個人差や学力差はあるのが実態。子どもたちの実態に合わせた学習展開を考えることはもちろん、一人一人の子どもをしっかりと理解した上で、その子に応じた支援を行ったり、授業では必ず全員に発言や発表の機会を与えるようにしている。また、授業以外では、全ての子に長という名の役職をもたせ、子どもに責任感と達成感を味わわせるようにしている。

(2) 成果

校内研修では伝え合う活動において目指す児童像を学年ブロックごとに設定したことで、ねらいを明確にした授業構想を立てることができた。

総合的な学習の時間など国語以外の教科でも伝え合う活動を取り入れてきた結果、根拠をもって自分の意見や考えを発表しようとする児童が増えると同時に、発表や話し合い活動において意見のやりとりが見られるようになってきた。また、異学年との発表会の場を設定したことで、学

年を越えて教え合ったり意見交換をし合ったりするようになり、学習に広がりや深まりがみられるようになってきた。総合的な学習の時間では、地域の方々から学ぶことで郷土に対する理解をより深めるとともに、郷土に誇りと愛着をもつ児童が増えた。

異年齢交流活動では楽しく遊ぶだけではない、人間関係の形成がみられた。上級生は自覚と責任をもって下級生の面倒を見ること、下級生は上級生に面倒を見られながらも、自分たちが上級生になった時はしっかりと下級生の面倒を見るという意識が培われている。

表現力を高めるための全校合唱では心一つにして表現することができた。音読集会では発表の後に意見交流の時間を設けたことで、1年生から6年生まで進んで感想を発表する児童が増えているなど、表現力を高める活動の実践を通して全校児童で作り上げる期待と緊張、達成感などをもたせることができた。

(3) 課題

- 友達の意見を受けて発言をするなどの意見交流の深まりがまだ十分とはいえない。ねらいに即して効果的に意見交流ができるようにしていくための手立てを考えていく必要がある。
- 伝え合う活動において意見の交流が一往復で終わるのではなく、複数回の意見の交流を通して課題に対する考えがより深まるような力をつけていくことが必要である。
- 異年齢活動では、教師が共通の認識をもった上での組織的な体制づくりが必要である。
- 全校合唱では全職員と音楽主任とのよりよい連携の在り方を探る必要がある。

(4) 指導・講評

① オープニングセレモニーについて

子どもへの支援の積み重ねを実感できた。へき地校、少人数校のよさを受信することができ感謝申し上げたい。

② 研究テーマについて

4つの柱を立てて研究を推進するなど、特色ある学校づくりが行われている。

ア 学校課題が明確であり、子どもたちに身に付けさせたい力が共通理解されている。

- ・ 総合的な学習の時間では、地域の実態や特色、地域の人たちの思いや願いを知り、それを学ぶ学習となっている。このことを通して子どもたちに未来を切り開く力を育むことができる考える。
- ・ 音読発表会は大河原小学校独自の取組であり、特色でもある。「昭和村の子どもたちにぜひ読ませたい音読教材集」を活用し、豊かな心を育む教育が行われている。

イ 国語や総合的な学習の時間において、主体性を高め合えるような学習過程の工夫が行われている。

- ・ 国語においては単元計画の導入において、ねらいや見通しが明示されている。このことによって、子どもたちは伝え合う力を身に付けることができている。
- ・ 総合的な学習の時間について、今日の学習はポスターセッションという学習形態の中間発表会だったが、資料の使い方が見事であり、特に6年生においては根拠をはっきり示した発表ができていた。今日のような学習や交流を通して、伝え合う力を伸ばすことができる。

ウ 異年齢交流活動において、児童が仲間と共に活躍できる場が設定されている。また、教師の関わり方を明確にした一覧表を作成しており、この一覧表は大変参考になる。

エ これからの取組として、学校評価と連携させるなど評価の工夫を行うことや今日までの実践やカリキュラムを保管・管理を行い、次年度以降につなげることが挙げられる。

I 分科会（沼田市立利根中学校）

自他のよさを認め合える生徒の育成

～協同的な学びを取り入れた学習を通して～

1 公開授業

(1) 第1校時

学年	教科・単元名	授業者	場 所
1 学年	社会科 「世界の諸地域 ヨーロッパ州」	林 路代	総合学習室
2 学年	数学科 「図形の性質と合同」	清水 有希 ・ 小林 智	2 年A組教室
3 学年	音楽科 「合唱表現の工夫」	立花 彩香	音楽室

(2) 第2校時

学年	教科・単元名	授業者	場 所
1 学年	総合的な学習の時間 「郷土学習」 「自然観察会～身近な森を観察しよう～」	小林 てつ ・ 林 路代	自然の森
2 学年	国語科 「方言と共通語」	星野 洋之	2 年A組教室
3 学年	英語科 「伝統文化を説明しよう」	須藤 陽介 ・ 立花 彩香 加瀬田典子 ・ P e t e r	3 年A組教室

2 研究発表

(1) 研究協議の中で出された意見等

- ・ 当初、「協同的な学び」についてのとらえ方が職員によって様々であったが、授業を通じた研究会を重ねることで、次第に共通理解を図ることができた。
- ・ 授業を通して生徒と教師、生徒同士の信頼関係が感じられた。また、ゲストティーチャーや高校生の人材がうまく活用されていた。
- ・ 専門教科がバラバラである中学校においては研究を深めていくことは難しい。「協同的な学び」を土台として、それを観点として授業研究会で話し合った。授業研究会も少人数の班を編成して行ったため、教師による学び合い、「協同的な学び」ができた。他教科の指導法を学ぶこともできた。
- ・ 連携型中高一貫教育は県内では3地区で行っている。利根中学校では数学・理科・英語の授業に尾瀬高校の先生に入ってもらったり、自然観察会などで高校生に指導してもらいながら交流したりできるようにしている。
- ・ 少人数で固定化された人間関係の中で、協同的な学びを支えるものは、教師が子どもの全人格を肯定的にとらえる基本的な姿勢である。その中でこそ、子どもたちが自分のよさに気づき、自他のよさを高め合ったり、深め合ったりすることができる。

(2) 成果

- ・ 文献研究、先進校の研究会・講演会の参加、講師を招いての学習会などを通して、「協同的な学び」についての研究を深めることができた。個人・ペア・グループ・全体を弾力的に組み合わせた学び合い、ジグソー学習など、新たな方法に挑戦した様々な授業実践が行われた。「協同的な学び」を取り入れた授業の更なる工夫・改善の可能性が広がった。
- ・ 生徒の興味をひく課題、身近な事象に関連付けた課題、選択させる課題、生徒自身が作成した課題を活用するなど、生徒が追求したくなるような課題の工夫が見られた。単元全体を見通した教材配列・課題配列はまだ十分な検討はされていないが、各教科の工夫や取組は、今後の単元構想において、大変参考になるものであった。
- ・ 「協同的な学び」を支援するために、写真や図表、ヒントカード、まとめプリントなど、多様な教具が使用され、学びを深めることができた。また、個への指示・グループへの指示の明確さが、大きな支援となることも実践で示された。さらに、ペアやグループなどの学習形態の柔軟な工夫が、大切な支援となることも明らかになってきている。
- ・ 「協同的な学び」を取り入れることで、意欲的・主体的に学び合う生徒の姿が見られた。普段の授業の中でも、気兼ねなく聴き合う雰囲気ができている。生徒アンケートの「学び合いの授業を受けて」「分かりやすさについて」の質問では、ほとんどの生徒が『よい』と答えている。また「授業への希望」として、『個人で考えるよりも、話し合っただけで考えを出す方がよい』『考える時間を増やしてほしい』などの積極的な意見が多数挙げられていた。

(3) 課題

- ・ 各教科の「協同的な学び」のとらえ方を確認・修正しながら、授業実践や授業研究会を今後も継続していく。授業実践を蓄積し、活用・発展できるように共有していく。また、実践の蓄積をもとに、各教科等の単元を見通した教材配列・課題配列を構想していく。
- ・ 「協同的な学び」を取り入れた授業を、生徒は好意的・前向きにとらえてくれた。しかし、各種テスト（単元テスト、定期テスト等）の結果から、「協同的な学び」と学力向上のはっきりした相関は今のところ認められない。「協同的な学び」を取り入れた授業が結果として学力向上に結び付くような実践の改善と継続が必要である。

(4) 指導・講評

- ・ 利根中学校には、恵まれた自然環境、地域の方々の学校教育に対する理解の高さ、近隣の小学校や高等学校との連携が図りやすい環境、明るく素直で何事にも一生懸命取り組む生徒といった小規模、へき地としてのよさがある。本日の授業や研究紀要にも、それらのよさを生かした先生方の取組が見られた。
- ・ 「協同的な学び」は、生徒の学習意欲の向上や仲間とともに高め合う学習活動の改善・充実を図る有効な手だてである。言語活動の充実、授業のねらいの達成への寄与のみならず、自分の考えを認めてもらったり、他の人の考えに共感したりする中で、自己存在感や自己有用感、共感的な人間関係を築くことにつながり、研究主題の具現化が図られる。ただ、「協同的な学び」は授業のねらいを達成するための一つの手だてであることを意識しておいてほしい。
- ・ 地域性を生かしたものでは、同じ利根町にある小学校や高等学校の連携がある。先生方にとっては、双方の教育課程の理解や子供の実態を捉えることで、自校の指導に役立つこと、子どもたちにとっては自分の未来の姿を見通せることや不安を解消すること、年下の子の世話をすることで自己有用感を感じることなどのよさがある。小学校・高等学校とも互恵性活動が充実するように、打合せや反省の機会を大切にしてほしい。
- ・ 沼田市の全小・中学校で行っている、「沼田大好き！ふるさと学習」は、地域の教育力、地域の方々の協力が欠かせない。これらの学習を通して、ふるさと利根町・沼田市を知り、それをもとに他の地域と比較するなどして、ふるさとのよさを知ったり、ふるさとの課題に気づき、どの課題の解決について考えたりする生徒に育っていくことにつながる。

資 料

I 平成26年度 へき地学校資料

〈1〉 級別へき地学校数

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成26. 5. 1 現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	A 計 分校	B 県全体 分校	$\frac{A}{B}$
	小学校	9	2	6	7	2	1(1)	0	27 1(1)	322 3(1)
中学校	6	2	1	5	2	1(1)	0	17 1(1)	167 2(1)	10.2%
計	15	4	7	12	4	2(2)	0	44 2(2)	489 5(2)	9.0%

〈2〉 級別へき地本校分校別学校数

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成26. 5. 1 現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	小計	合計
	小学校	本校	9	2	6	7	2	0	26
分校		0	0	0	0	0	1(1)	1(1)	
中学校	本校	6	2	1	5	2	0	16	17 (1)
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	1(1)	

〈3〉 級別へき地学校児童生徒数

平成26. 5. 1 現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	計 (A)	県全体 (B)	$\frac{A}{B}$
	小学校	904	405	420	391	126	0	0	2,246	106,219
中学校	421	313	34	421	49	0	0	1,238	55,987	2.2%
計	1,325	718	454	812	175	0	0	3,484	162,206	2.1%

〈4〉 郡市別へき地学校数一覧

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成26. 5. 1 現在

No.	郡市	学校数			内 訳							合 計
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定						県 準	
					4	3	2	1	準	特		
1	前 橋	小 中	1(1) 1(1)	1(1) 1(1)		1(1) 1(1)						1(1) 1(1)
2	渋 川	1		1							1	1
3	高 崎	2 1		2 1					2			2 1
4	安 中	1 1		1 1							1 1	1 1
5	多 野	2 2		2 2			1 2	1				2 2
6	甘 楽	1		1							1	1
7	吾 妻	13 7		13 7			1 4	5 4	1	2 1	4 2	13 7
8	沼 田	2 2		2 2					1 1		1 1	2 2
9	利 根	5 2		5 2				1 1	2		2 1	5 2
総	小 計	26 16	1(1) 1(1)	27(1) 17(1)	0 0	1(1) 1(1)	2 2	7 5	6 1	2 2	9 6	27(1) 17(1)
	計	42	2(2)	44(2)	0	2(2)	4	12	7	4	15	44(2)

〈5〉 複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

平成26. 5. 1 現在

郡市	学 年								学級数計	学校数
	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年			
高崎市	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
多野郡	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2
吾妻郡	1	1	2	0	2	0	0	0	6	3
沼田市	0	1	0	0	1	0	0	0	2	2
利根郡	2	0	2	0	2	0	0	0	6	3
計	3	3	6	0	5	0	0	0	17	11

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移(小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級	計 (A)		県全体(B)		(A)／(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
59	6,160	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0		2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0		2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0		2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0		2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0		2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2

II 平成26年度 群馬県へき地教育振興会役員

平成27. 1. 15現在

会 長 星野已喜雄 (沼田)
 副会長 宮前敏十郎 (多野：神流町長) 篠原 勝郎 (吾妻：中之条町教育委員長)
 千明 金造 (利根：片品村長)
 理 事 佐藤 博之 (前橋：前橋市教育長) 後藤 晃 (渋川：渋川市教育長)
 飯野 眞幸 (高崎：高崎市教育長) 桑原 幸正 (安中：安中市教育長)
 黒澤 右京 (多野：上野村教育長) (甘楽：)
 篠原 勝郎 (吾妻：中之条町教育委員長) 星野已喜雄 (沼田)
 千明 金造 (利根：片品村長)

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
前 橋 市		佐 藤 博 之 (教育長)
渋 川 市		後 藤 晃 (教育長)
高 崎 市		飯 野 眞 幸 (教育長)
安 中 市		桑 原 幸 正 (教育長)
多 野 郡	上 野 村	黒 澤 右 京 (教育長)
	神 流 町	齋 藤 義 久 (教育長)
甘 楽 郡	南 牧 村	神 戸 芳 雄 (教育長職務代理者)
吾 妻 郡	中之条町	寫 村 真 也 (教育長)
	長野原町	矢野今朝治 (教育長職務代理者)
	嬭 恋 村	熊 川 浩 (教育長)
	草 津 町	中 澤 隆 (教育長)
	高 山 村	高 橋 直 幸 (教育長)
	東 吾 妻 町	小 林 靖 能 (教育長)
沼 田 市		宇 敷 重 信 (教育長)
利 根 郡	片 品 村	星 野 準 一 (教育長)
	昭 和 村	板 橋 芳 郎 (教育長)
	みなかみ町	牧 野 堯 彦 (教育長)

監 事 寫村 真也 (吾妻：中之条町教育長) 星野 準一 (利根：片品村教育長)

平成26年度 へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局 書記・会計 佐々木 裕也 ・ 鈴木 健一

郡市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
前 橋 市	前橋市教育委員会	織田澤 信 司	大 竹 正 隆 (中部教育事務所)
渋 川 市	渋川市教育委員会	名 塚 浩	
高 崎 市	高崎市教育委員会	水 谷 悦 子	岩 崎 聡 (西部教育事務所)
安 中 市	安中市教育委員会	城 田 敬 子	
上 野 村	上野村教育委員会	今 井 久 司	
神 流 町	神流町教育委員会	齋 藤 朋 美	
南 牧 村	南牧村教育委員会	小 池 悦 子	佐 藤 三 枝 子 (吾妻教育事務所)
中之条町	中之条町教育委員会	本 多 守	
長 野 原 町	長野原町教育委員会	佐 藤 忍	
嬭 恋 村	嬭恋村教育委員会	宮 崎 孝	
草 津 町	草津町教育委員会	椛 澤 知 恵 子	
高 山 村	高山村教育委員会	平 方 英 俊	
東 吾 妻 町	東吾妻町教育委員会	角 田 豊	佐 々 木 孝 (利根教育事務所)
沼 田 市	沼田市教育委員会	後 藤 一 将	
片 品 村	片品村教育委員会	須 藤 幸 夫	
昭 和 村	昭和村教育委員会	中 島 伸 枝	
みなかみ町	みなかみ町教育委員会	小 倉 正 人	

Ⅲ 平成26年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 吉野隆哉（利根：片品村立片品小学校）
- ・副理事長 並木伸一（甘楽：南牧村立南牧中学校）
宮崎光男（吾妻：嬭恋村立田代小学校）
角田和志（沼田：沼田市立利根中学校）
- ・常任理事 石坂克己（安中：安中市立松井田北中学校）
富沢正（吾妻：中之条町立六合小学校）
- ・事務局長 小野和好（利根：片品村立片品中学校）
- ・会計部長 遠藤由理子（利根：昭和村立大河原小学校）
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地（電話番号）	備考
A 前橋・高崎・安中・多野・甘楽	並木伸一	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大日向1045 (0274-87-2501)	副理事長
	石坂克己	安中市立松井田北中学校	安中市松井田町上増田3602-1 (027-393-1520)	常任理事
	飯出哲夫	上野村立上野中学校	多野郡上野村檜原113 (0274-59-2040)	研究部長
	倉林由恭	高崎市立倉渕小学校	高崎市倉渕町権田314-1 (027-378-3218)	
	佐藤裕彦	神流町立万場小学校	多野郡神流町万場84-2 (0274-57-2320)	
B 吾妻	宮崎光男	嬭恋村立田代小学校	吾妻郡嬭恋村田代438 (0279-98-0042)	副理事長 調査部長
	唐澤宏	長野原町立第一小学校	吾妻郡長野原町林1394-5 (0279-82-2145)	
	埴田栄一	草津町立草津小学校	吾妻郡草津町草津3-1 (0279-88-2156)	

B 吾 妻	高山 明彦	東吾妻町立岩島中学校	吾妻郡東吾妻町岩下1887 (0279-67-2037)	
	富沢 正	中之条町立六合小学校	吾妻郡中之条町小雨599-1 (0279-95-3571)	常 任 理 事
C 利 根 ・ 沼 田 ・ 渋 川	吉野 隆哉	片品村立片品小学校	利根郡片品村土出1957 (0278-58-7303)	理 事 長
	角田 和志	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝334 (0278-56-2044)	副 理 事 長 総 務 部 長
	片山 雅資	片品村立武尊根小学校	利根郡片品村摺淵307 (0278-58-2043)	
	小野 和好	片品村立片品中学校	利根郡片品村鎌田4480 (0278-58-2019)	事 務 局 長
	遠藤由理子	昭和村立大河原小学校	利根郡昭和村糸井5455-354 (0278-24-7166)	会 計 部 長
	中島 誓子	沼田市立多那小中学校	沼田市利根町多那732 (0278-53-2698)	
「板木」 実務 担当	唐澤 宏	長野原町立第一小学校	吾妻郡長野原町林1394-5 (0279-82-2145)	

IV 平成26年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務先所在地（電話番号）
吾 妻	小野塚則幸	長野原町立第一小学校内	〒377-1309 吾妻郡長野原町大字林1394-5 (0279-82-2145)
利 根	倉澤 由之	川場村教育委員会内	〒378-0101 利根郡川場村大字谷地2409-1 (0278-52-3458)

V 平成26年度 へき地教育功労者

No.	氏 名	該当する内規・功績の概要
1	あらい としこ 新井 敏子 上野村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に上野村立上野小学校教諭として退職するまで、多野郡内のへき地学校に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	あらい としゆき 新井 俊幸 神流町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に神流町立中里中学校校長として退職するまで、多野郡内のへき地学校等に35年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	おのづか のりゆき 小野塚 則幸 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に中之条町立西中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	ごとう やよい 後藤 弥生 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に中之条町立西中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に26年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	とみざわ まさよ 富澤 正世 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に中之条町立中之条小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内等のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	やまもと みきこ 山本 三喜子 長野原町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に長野原町立中央小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に30年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	ゆもと ぜんたろう 湯本 善太郎 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に嬭恋村立東部小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に34年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	こじま 小嶋 きよみ 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に嬭恋村給食センター調理員として退職するまで、嬭恋村給食センターに23年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	かとう としあき 加藤 利明 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に東吾妻町立東中学校校長として退職するまで、吾妻郡内等のへき地学校に25年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	おぶち ただし 小渕 忠 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に東吾妻町立岩島中学校教頭として退職するまで、吾妻郡内等のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	かねこ さとこ 金子 聡子 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に東吾妻町立東小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内等のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	たかはし みえこ 高橋 美恵子 沼田市教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に沼田市立多那小学校養護教諭として退職するまで、利根沼田地区のへき地学校に34年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
13	よこやま 横山 ひとみ 片品村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成26年3月に片品村立片品北小学校教諭として退職するまで、片品村内のへき地学校に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第63集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の先生方をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきました。この間、多くの方々の努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示すものとして、その価値を確かなものとしております。

さて、本年度は「第63回全国へき地教育研究大会群馬大会」、「第16回関東甲信越へき地教育研究大会群馬大会」、「第63回群馬県へき地教育研究大会」が高崎市を主会場に、県内9分科会場において大々的に開催されました。全国各地から参加者が集い、多くの研究成果が発表され、広い視点からへき教育についての考えをさらに深める貴重な機会となりました。人のネットワークも広がりました。こうした大きな成果は、授業校の先生方の多年に渡る充実した研究と、関係機関の方々のご尽力、平成23年度より準備を始めた実行委員会の奮励など、チームワークの賜物と存じます。本冊子においては、例年とは構成を若干変更し、第二部で研究大会の報告をさせていただきました。

近年の少子・高齢化、人口の都市部への集中とそれに伴う小・中学校の統廃合は、全国的な課題であります。群馬県でも10年前（平成17年度）には61校あったへき地学校が今年度は44校となり、今年度末には吾妻郡で6校のへき地校が閉校する予定です。統廃合により通学範囲等は大幅に変化し、同時にへき地教育も形を変えていきますが、その必要性は継続しています。

皆様のご協力によりできあがった「板木」第63集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの人に活用されることを願っております。

なお、編集に携わった委員は以下の通りです。

群馬県教育委員会事務局	野村 晃男（義務教育課長）
	白石 直樹（義務教育課教科指導係長）
	佐々木裕也（義務教育課 教科指導係 指導主事）
	鈴木 健一（義務教育課 教科指導係 指導主事 板木担当）
群馬県へき地教育研究連盟	吉野 隆哉（県へき連 常任理事・理事長）
	並木 伸一（県へき連 常任理事・副理事長・研究部）
	宮崎 光男（県へき連 常任理事・副理事長・調査部長）
	角田 和志（県へき連 常任理事・副理事長・総務部長）
	小野 和好（県へき連 常任理事・事務局長・総務部）
	遠藤由理子（県へき連 常任理事・会計部長・総務部）
	石坂 克己（県へき連 常任理事・総務部）
	富沢 正（県へき連 常任理事・監査）
	飯出 哲夫（県へき連 理事・研究部長）
	倉林 由恭（県へき連 理事・図書担当）
	佐藤 裕彦（県へき連・理事・調査部・監査）
	埴田 栄一（県へき連 理事・総務部）
	高山 明彦（県へき連 理事・調査部）
	片山 雅資（県へき連 理事・調査部）
	中島 誓子（県へき連 研究部）
	唐澤 宏（県へき連 理事・研究部・「板木」担当）